



# 品質管理システム インストール手順書

Ver. 1.0.0.0

2010 - 2011

(株) ソファード



## 目 次

1.	本書説明	4
1.1.	本書概要	4
1.2.	用語説明	4
1.3.	凡例／記号説明	4
2.	インストール概要および手順	5
3.	サーバーPCの設定	7
3.1.	Windows インストーラ 4.5 のインストール	7
3.2.	データベース保守アプリケーションのインストール	9
3.3.	データベースのインストール	11
3.4.	データベースの構成変更	18
3.5.	データベース作成ツールの実行	20
3.6.	ライセンス管理用 USB キードライバーのインストール	21
4.	クライアント PC の設定	26
4.1.	品質管理システムアプリケーションのインストール	26
5.	その他の設定／確認	29
5.1.	ログインユーザーアカウントの確認方法	29
5.2.	休止 / スリープ状態の確認方法	31
5.3.	OS のサービスパックの確認方法	33
5.4.	ネットワークが切断された場合の対処方法	35
6.	アンインストール	36
6.1.	品質管理システムのアンインストール	36
6.2.	品質管理システム（データベース保守アプリケーション）のアンインストール	39
6.3.	SQL Server 2008 R2 Express Edition のアンインストール	42
7.	連絡先	43

## 1. 本書説明

### 1.1. 本書概要

本書は、「品質管理システム」のインストール手順書です。

「品質管理システム」を実行するために、本書に従って実行環境を作成してください。

### 1.2. 用語説明

本書で使用する用語を以下に示します。

【表 : 1-2】

No.	用語	説明	備考
1.	PC	パソコンのことです。	
2.	OS	パソコンのオペレーティングシステムのことです。 ※Windows XP / Windows Vista / Windows 7 など	
3.	HDD	ハードディスクのことです。	
4.	DB	データベースのことです。 本書では、「SQL Server 2008」のことです。	
5.	USB	周辺機器とパソコンを結ぶデータ転送路の規格の一つです。	
6.	USB-BOX	(株) ミットヨ デジマチックインターフェースに準拠したデジタル測定器と PC との間で、通信を行う機器です。	

### 1.3. 凡例／記号説明

文字色にて記述内容を区分します。

詳細は以下の通りです。

**黒文字** : 通常記述

**赤文字** : 特記事項または注意書き

※凡例が記述されている場合には、その内容に従ってください。

## 2. インストール概要および手順

### ●概要説明

「品質管理システム」を動作させるには、「サーバーPC」と「クライアントPC」に2種類の環境が必要です。

1) サーバーPC …… PC台数：1台

データベース、およびデータベースを保守するためアプリケーションが存在するPCです。

2) クライアントPC …… PC台数：1～5台

ユーザーが「品質管理システム」を操作するためのPCです。

※「サーバーPC」と「クライアントPC」を1台のPCで兼用にすることもできます。

動作環境（推奨）を以下に示します。

### 動作環境（推奨）

【表：2-1】

No.	項目名	内容	備考
1.	種別	PC/AT 互換機	
2.	CPU	2.0 GHz 以上	
3.	OS	Windows XP Home / Professional SP2 以上 Windows Vista Home Basic 以上のエディション Windows 7 Home Basic 以上のエディション ※すべて 32 ビット版のみです。	※1
4.	メモリ	1GB 以上	
5.	HDD	サーバーPC 空き容量：60GB 以上 ※データベース領域を含みます。 クライアントPC 空き容量：10GB 以上	※2
6.	データベース	SQL Server 2008 R2 Express Edition ※SQL Server 2008 の製品版を別途購入しても動作可能です。	
7.	USB ポート	USB 1.1 以上 ※ポート数：1ポート以上 ※ライセンス管理用 USB キー用 / USBBOX 用の 2 ポート	※3
8.	Web ブラウザ	Internet Explorer 6.0 以上	
9.	ディスプレイ	XGA (1024×768) 以上	

※1 Windows 2000 以前のバージョン、および 64 ビット OS には対応していません。

また、Windows Server 2003 / 2008 は動作環境の確認を行っていません。

※2 サーバーPC には、データベースのバックアップ領域として、この他に最大 120GB の空き容量がある外付け HDD 等が必要です。

※3 サーバーPC にはライセンス管理用 USB ポートが必要となりますので、最低 1 ポート必要です。

また、USB-BOX を接続する場合も 1 ポートが必要です。

## ●インストール手順

各種インストール用のファイルは「CD/DVD ドライブ:¥Setup」フォルダに存在します。

「サーバーPC」と「クライアントPC」のそれぞれの設定手順は、以下の通りです。

### 必須

◎：必ず設定する必要があります。

☆：PC環境によって変わる可能性があります。

【表：2-2】サーバーPCの設定

順序	設定名	必須	文書項番
1.	Windows インストーラ 4.5 のインストール	☆	
2.	データベース保守アプリケーションのインストール	◎	
3.	データベースのインストール	◎	
4.	データベースの構成変更	◎	
5.	データベース作成ツールの実行	◎	
6.	ライセンス管理用 USB 機器ドライバーのインストール	◎	

【表：2-3】クライアントPCの設定

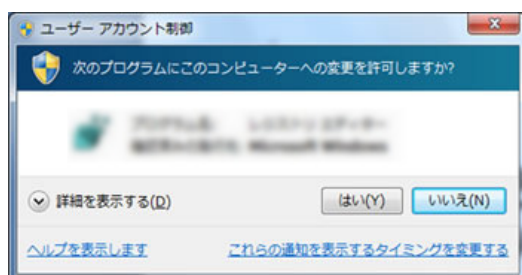
順序	設定名	必須	文書項番
1.	品質管理システムアプリケーションのインストール	◎	

## ●Windows Vista / Windows 7 のユーザーアカウント制御 (UAC) について

Windows Vista / Windows 7 では、インストールや設定変更時に、確認画面（「..の変更を許可しますか」や「..には、あなたの許可が必要です」という画面）が表示されることがあります。

実行中にこの確認画面が表示された場合は、「はい」のボタンを押して、処理を続行してください。

【参考】ユーザーアカウント制御画面



### 3. サーバーPC の設定

サーバーPC の設定手順および設定方法を説明します。

前提として、以下の条件が必要となります。

- 1) インストール時のWindowsのログインユーザーが、「管理者権限 (Administrator)」を持っていること。  
→ [5.1. ログインユーザーアカウントの確認方法](#) の項を参照してください。
- 2) PCの「休止」が無効となっていること。  
→ [5.2. 休止 / スリープ状態の確認方法](#) の項を参照してください。
- 3) Windows XP / Windows Vistaの場合は、最新のサービスパックが適用されていること。  
→ [5.3. OSのサービスパックの確認方法](#) の項を参照してください。

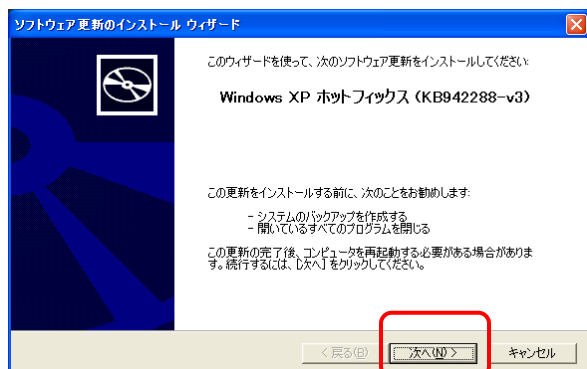
#### 3.1. Windows インストーラ 4.5 のインストール

Windows にデータベースをインストールする際に、「Windows インストーラ」が事前にインストールされている必要があります。

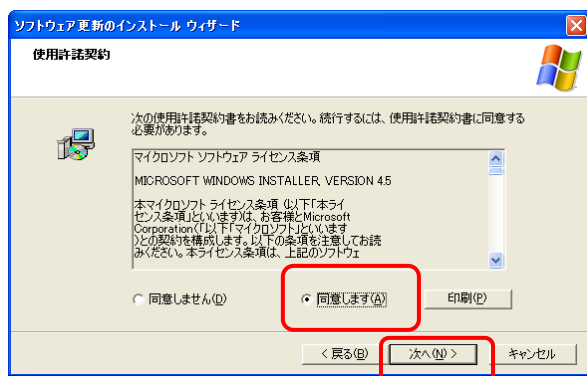
※Windows Vista サービスパック 2 / Windows 7 の場合は、既にインストールされているため、この項目の操作は不要です。

##### ●Windows XP のインストール手順

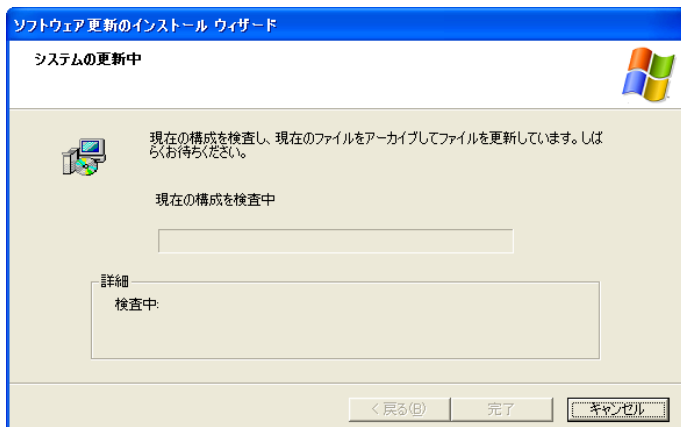
- 1) CD/DVD ドライブ:¥Setup¥Tools¥WinXP フォルダにある「WindowsXP-KB942288-v3-x86.exe」を起動します。
- 2) 以下の画面が表示されたら、「次へ」を押します。



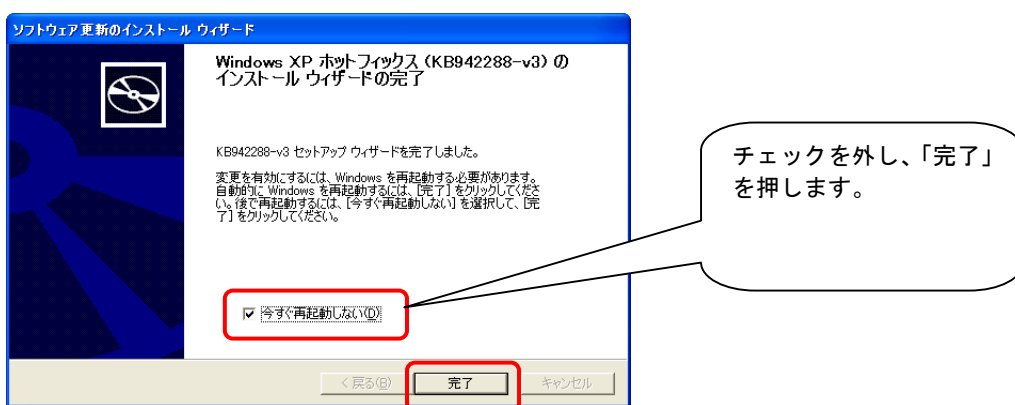
- 3) 使用許諾契約で、「同意します」を選択し、「次へ」を押します。



- 4) システムの更新中の画面が表示されますので、完了するまで待ちます。



- 5) 完了画面が表示されますので、「今すぐ再起動しない」のチェックを外し、「完了」を押して再起動します。



#### ●Windows Vista (サービスパック 1 の場合) のインストール手順

- 1) CD/DVD ドライブ:¥Setup¥Tools¥WinVista フォルダにある「Windows6.0-KB942288-v2-x86.msu」を起動します。
- 2) それ以降は、上記「Windows XP」と同様の操作を行います。

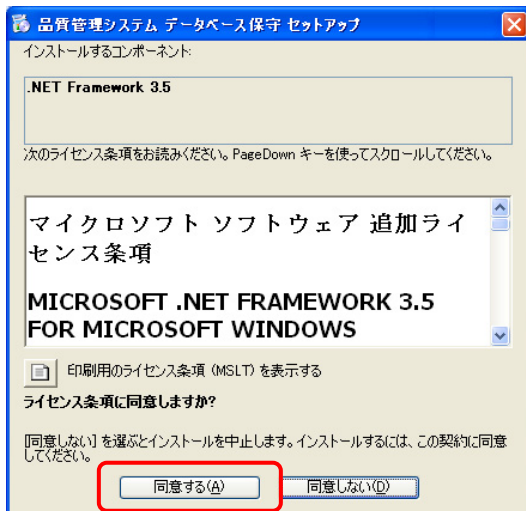
### 3.2. データベース保守アプリケーションのインストール

データベースのインストール前に、データベースの保守を行う「データベース保守」アプリケーションをインストールします。

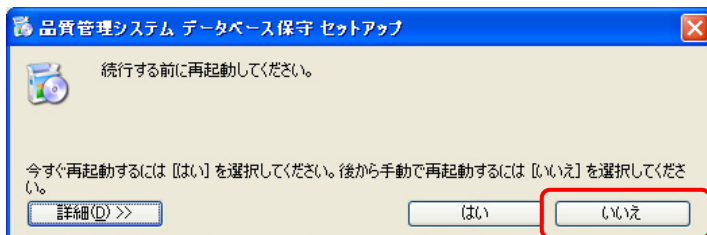
#### ●Windows XP / Windows Vista / Windows 7 のインストール手順

- 1) CD/DVDドライブ:¥Setup¥Software¥QCSysフォルダにある「 Setup\_QcDbm.exe 」を起動します。
- 2) PCに「.NET Framework 3.5 SP1」がインストールされていない場合は、下記のような画面が表示されますので、「同意する」を押し、完了するまで待ちます。(完了するまで数分かかる場合があります。)

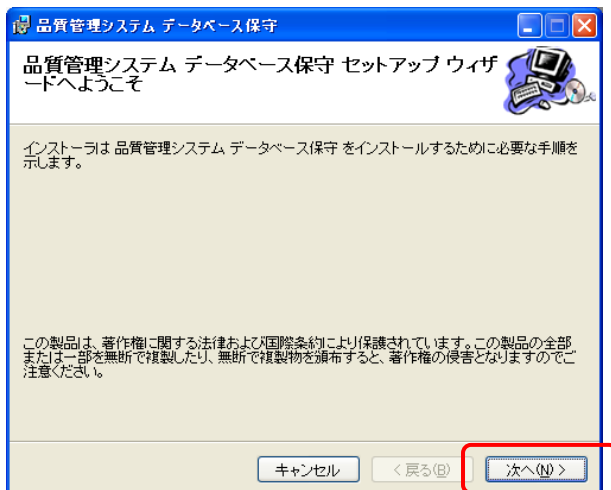
※ 既にインストール済みの場合は2)、3)が省略されます。



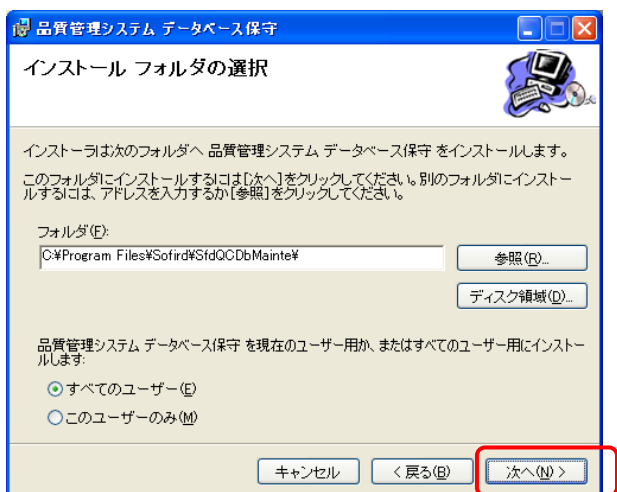
- 3) 「.NET Framework 3.5 SP1」のインストールが完了すると、再起動の確認画面が表示されることがありますが、「いいえ」を押しして続行します。(※表示されない場合は、自動的に4)に進みます。)



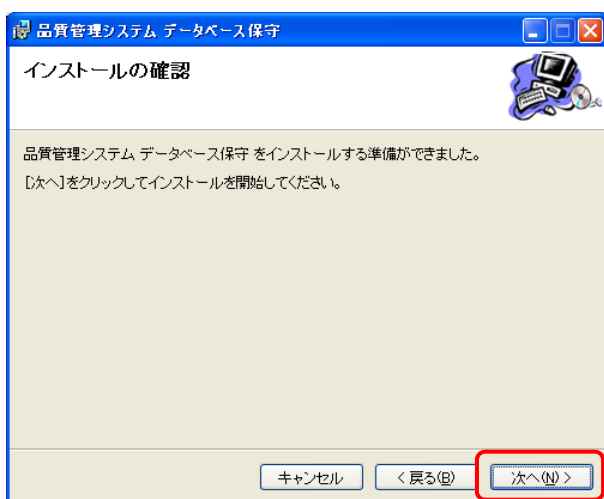
- 4) 「データベース保守」のセットアップ画面が表示されますので、「次へ」を押しします。



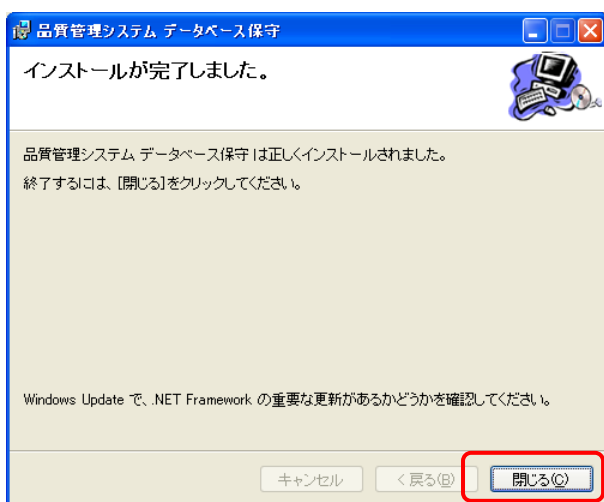
- 5) 「フォルダ選択」の画面が表示されますので、何も変更せず、「次へ」を押します。



- 6) 「確認」の画面が表示されますので、「次へ」を押すとインストールが始まります。そのまま完了するまで待ちます。



- 7) インストールが完了したら、「閉じる」を押すとインストールが完了します。



アプリケーションのアイコン



- 8) 2)、3)のインストール画面が表示された場合は、ここでPCの再起動を行います。

※表示されなければ、再起動は不要です。

**この状態では、まだこのアプリケーションを起動できません。**

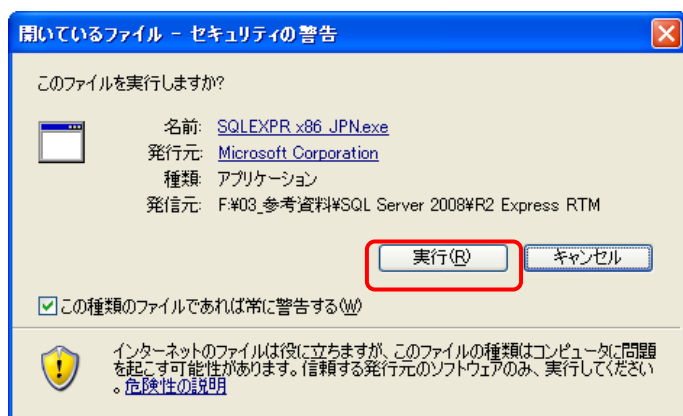
**インストール完了後に起動してください。**

### 3.3. データベースのインストール

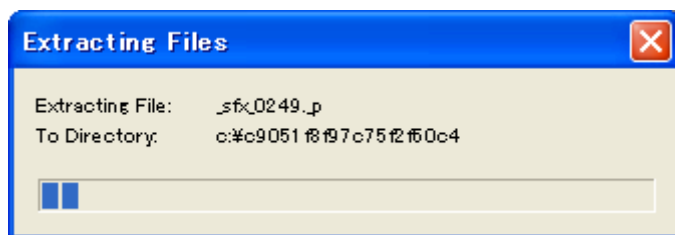
次に、データベース「SQL Server 2008 R2 Express」をインストールします。

#### ●Windows XP / Windows Vista / Windows 7 のインストール手順

- 1) CD/DVDドライブ:¥Setup¥Databaseフォルダにある「SQLEXP\_x86\_JPN.exe」を起動します。
- 2) 以下のようなセキュリティ警告画面が表示されたら、「実行」を押します。

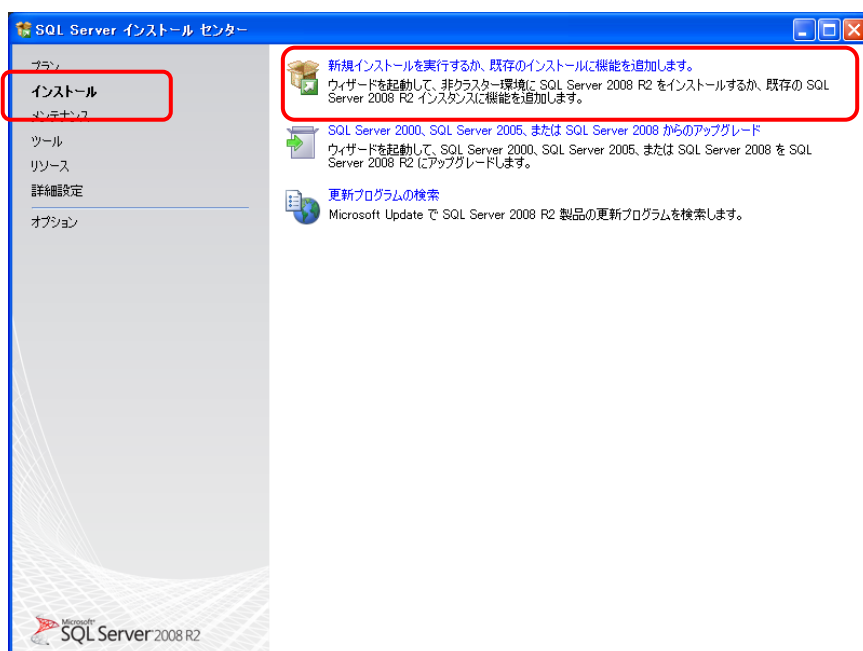


- 3) ファイルの展開処理が始まりますので、そのまま待ちます。(数分ほどがかかる場合があります。)



- 4) 「SQL Server インストール センター」という画面が表示されますので、左側の「インストール」メニューをクリックし、右側の「新規インストールを実行するか、既存の...」をクリックします。

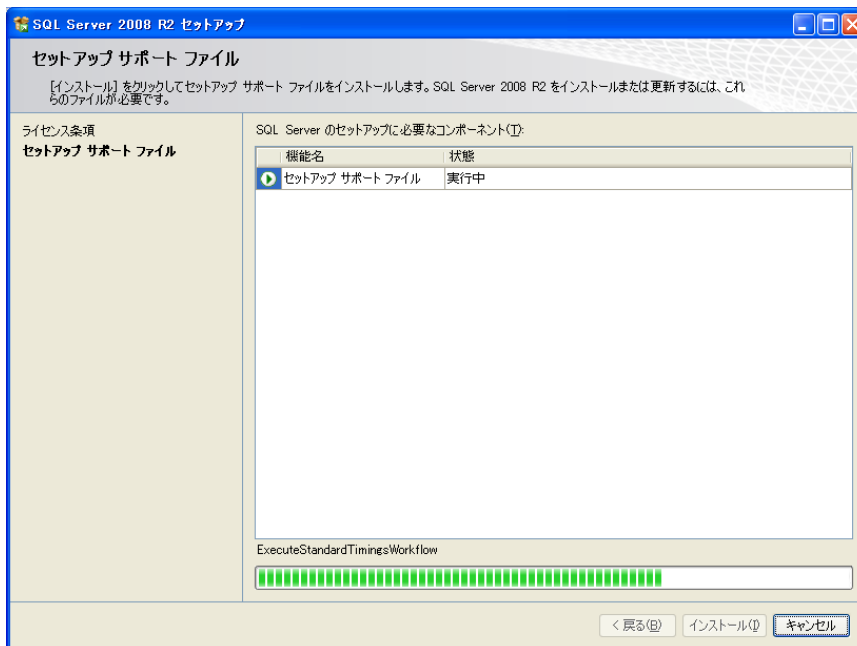
※初期状態で、以下のような画面が表示されています。



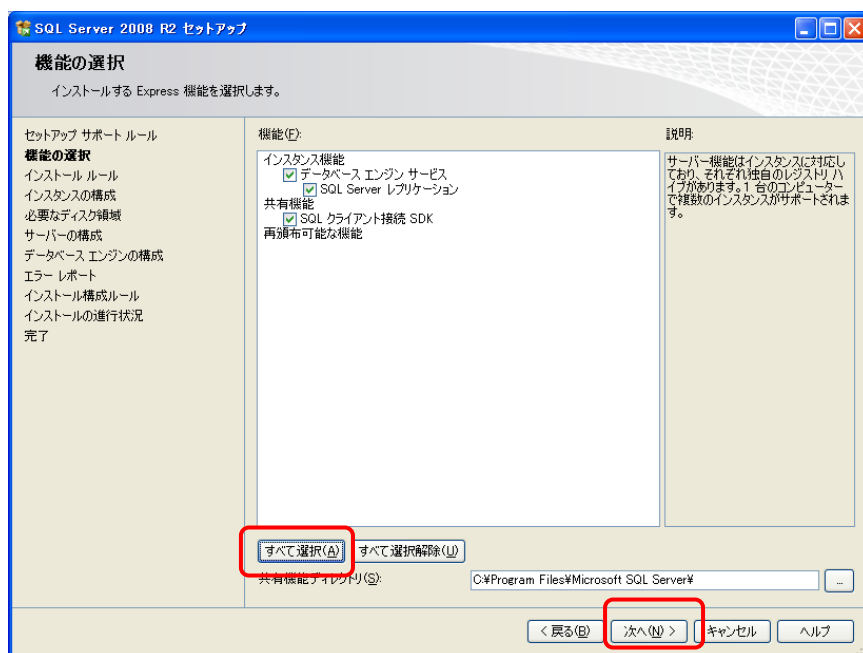
- 5) 「ライセンス条項」の画面が表示されますので、「ライセンス条項に同意する」をチェックし、「次へ」を押します。



- 6) 「セットアップサポートファイル」という画面が表示されますので、そのまま待ちます。

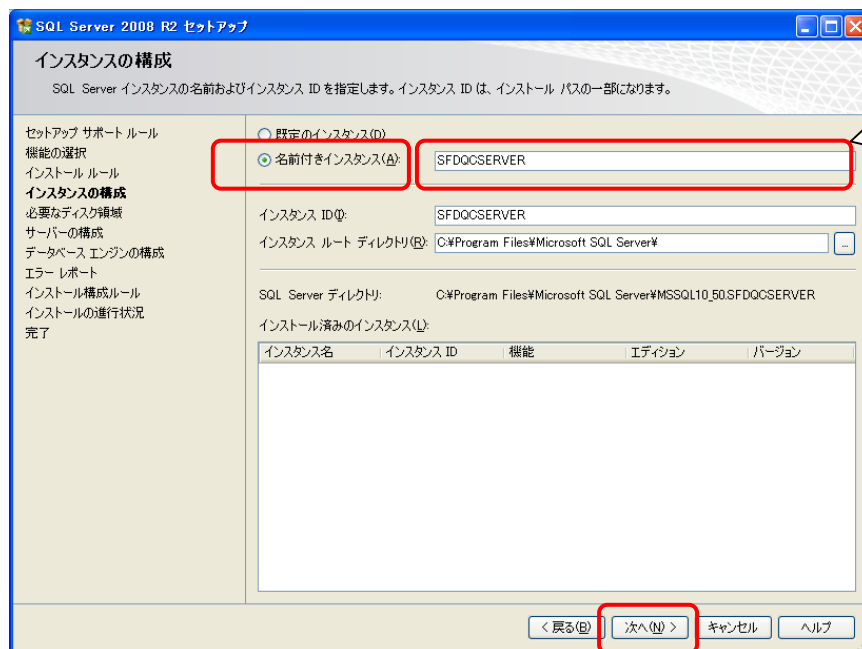


- 7) 「機能の選択」という画面が表示されますので、「すべて選択」ボタンを押した後、「次へ」を押します。



- 8) 「インスタンスの構成」という画面が表示されますので、「名前付きインスタンス」を選択し、その右側の入力欄に「SFDQCSERVER」（半角、大文字）と入力します。それ以外は変更せず、「次へ」を押します。

※これが本システム用のデータベースの名前になります。アプリケーションが接続するのに必要な情報となりますので、間違えないようにしてください。



「名前付きインスタンス」を選択し、右側の入力欄に「SFDQCSERVER」（半角、大文字）と入力します。

- 9) 「サーバーの構成」という画面が表示されますので、「サービスアカウント」タブの
- ・表の「SQL Server Database Engine」の“アカウント名”を「NT AUTHORITY¥SYSTEM」に変更
  - ・表の「SQL Server Browser」の“スタートアップの種類”を「自動」に変更
- します。

表の「SQL Server Database Engine」の“アカウント名”を「NT AUTHORITY¥SYSTEM」に変更します。

表の「SQL Server Browser」の“スタートアップの種類”を「自動」に変更します。

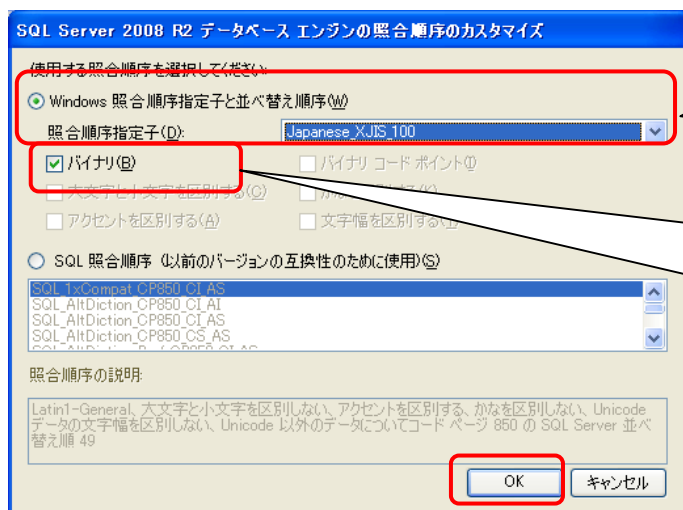
- 10) 次に、同一画面上にある「照合順序」タブを表示し、「カスタマイズ」を押します。

表の「SQL Server Database Engine」の“アカウント名”を「NT AUTHORITY¥SYSTEM」に変更します。

表の「SQL Server Browser」の“スタートアップの種類”を「自動」に変更します。

11) 「照合順序のカスタマイズ」という画面が表示されますので、

- [1] 「Windows 照合順序指定子と並び替え順序」を選択
- [2] 「照合順序指定子」の選択欄より「Japanese\_X\_JIS\_100」を選択
- [3] チェックボックスの中から「バイナリ」をチェックして、「OK」を押します。



- [1] 「Windows 照合順序指定子と並び替え順序」を選択します。
- [2] 「照合順序指定子」の選択欄より「Japanese\_X\_JIS\_100」を選択します。

- [3] チェックボックスの中から「バイナリ」をチェックします。  
※その他は選択できなくなります。

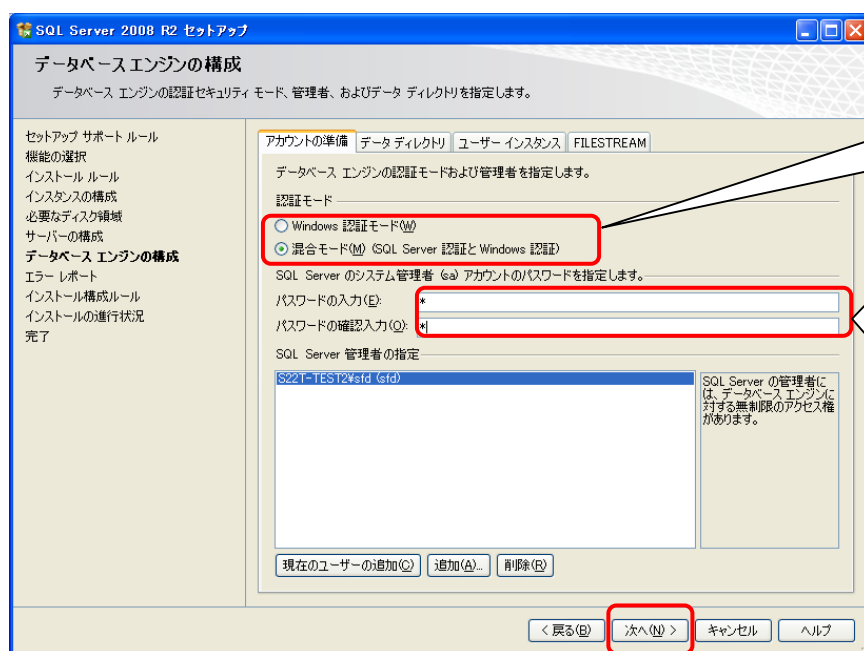
12) 10)の画面に戻りますので、「次へ」を押します。

13) 「データベースエンジンの構成」という画面が表示されますので、「アカウントの準備」タブの「認証モード」の設定で

- [1] 「混合モード」を選択
- [2] 「SQL Server のシステム管理者(sa...)」の「パスワードの入力」と「パスワードの確認入力」に「pass」と入力

し、それ以外の箇所は何も変更せずに「次へ」を押します。

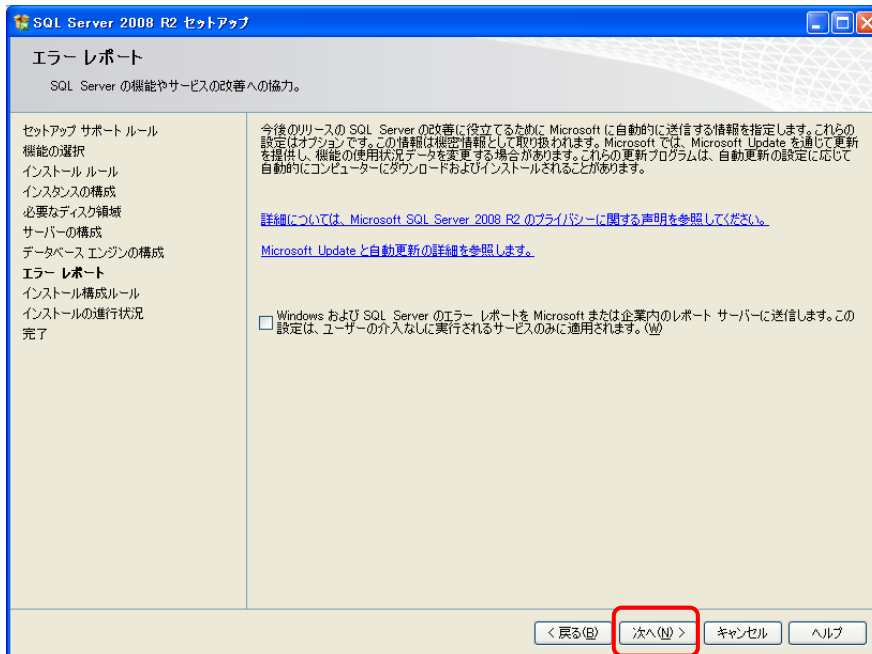
※「SQL Server 管理者の指定」欄に、現在のログインユーザーが表示されているはずですが、表示されていない場合は、「現在のユーザーの追加」ボタンを押すと、表示されます。



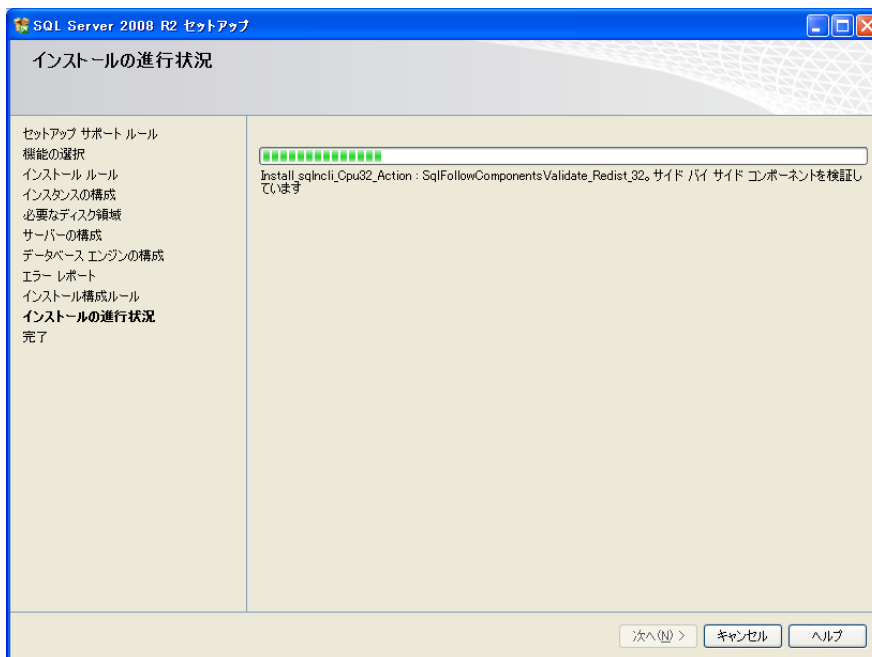
- [1] 「混合モード」を選択します。

- [2] 「SQL Server のシステム管理者(sa...)」の「パスワードの入力」と「パスワードの確認入力」に「pass」と入力します。

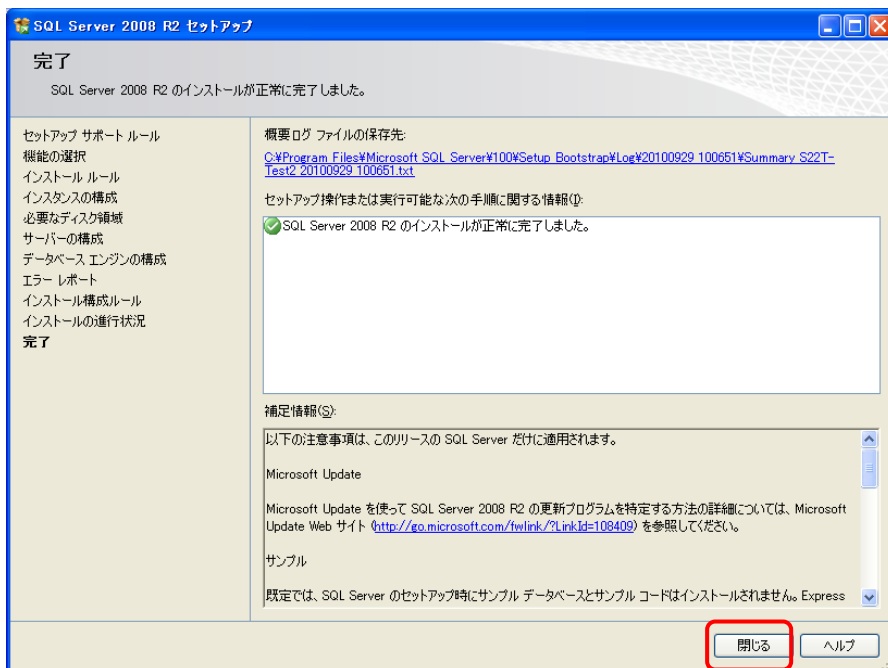
- 14) 「エラーレポート」という画面が表示されますので、何も変更せずに「次へ」を押すと、インストールが開始されます。



- 15) 「インストールの進行状況」という画面が表示されますので、そのまま待ちます。  
 ※ インストール時間は PC の環境により変わりますが、10分 ~ 50分程度かかります。



16) 正常にインストールされれば、「完了」という画面が表示されますので、「閉じる」を押します。



17) 4) と同じ画面に戻りますので、右上の「×」ボタンを押して、終了します。



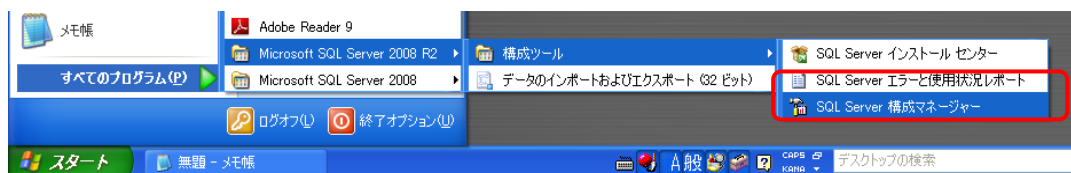
以上で、データベースのインストールは終了です。

### 3.4. データベースの構成変更

次に、データベースをクライアント PC と接続するために、データベース構成を変更します。

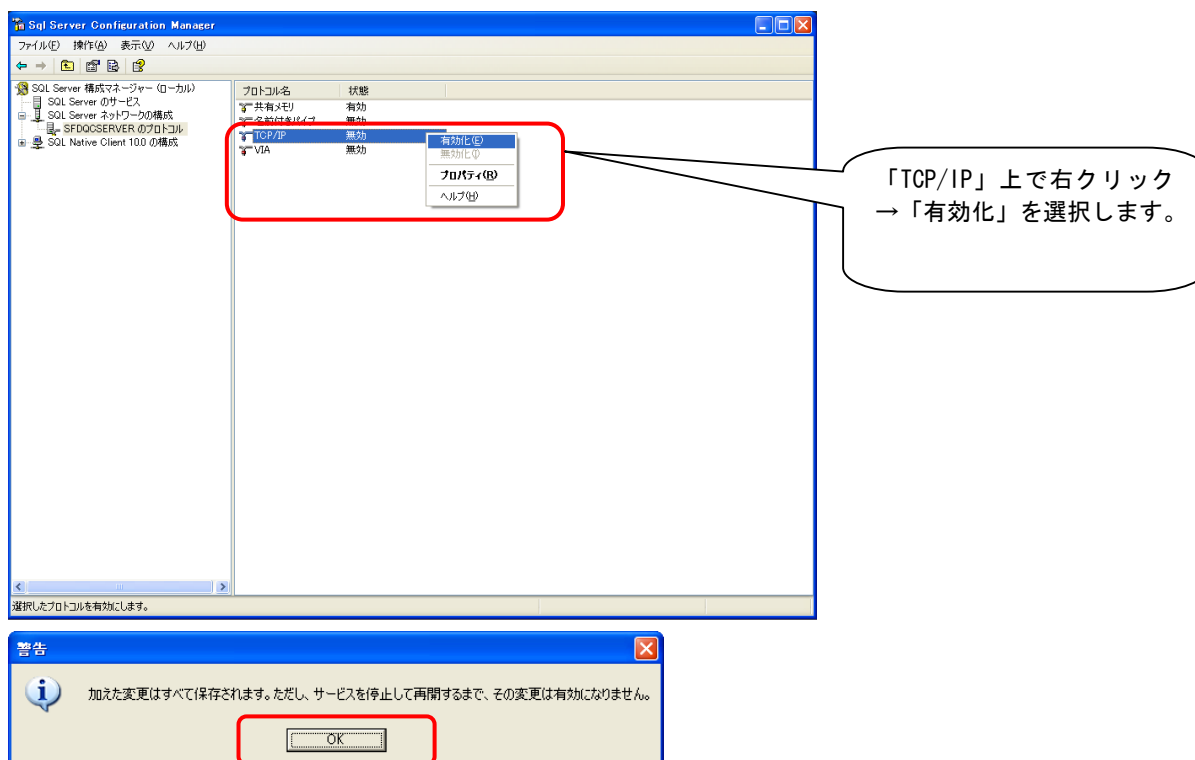
#### ●Windows XP の場合の手順

- 1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Microsoft SQL Server 2008 R2」→「構成ツール」→「SQL Server 構成マネージャー」を起動します。



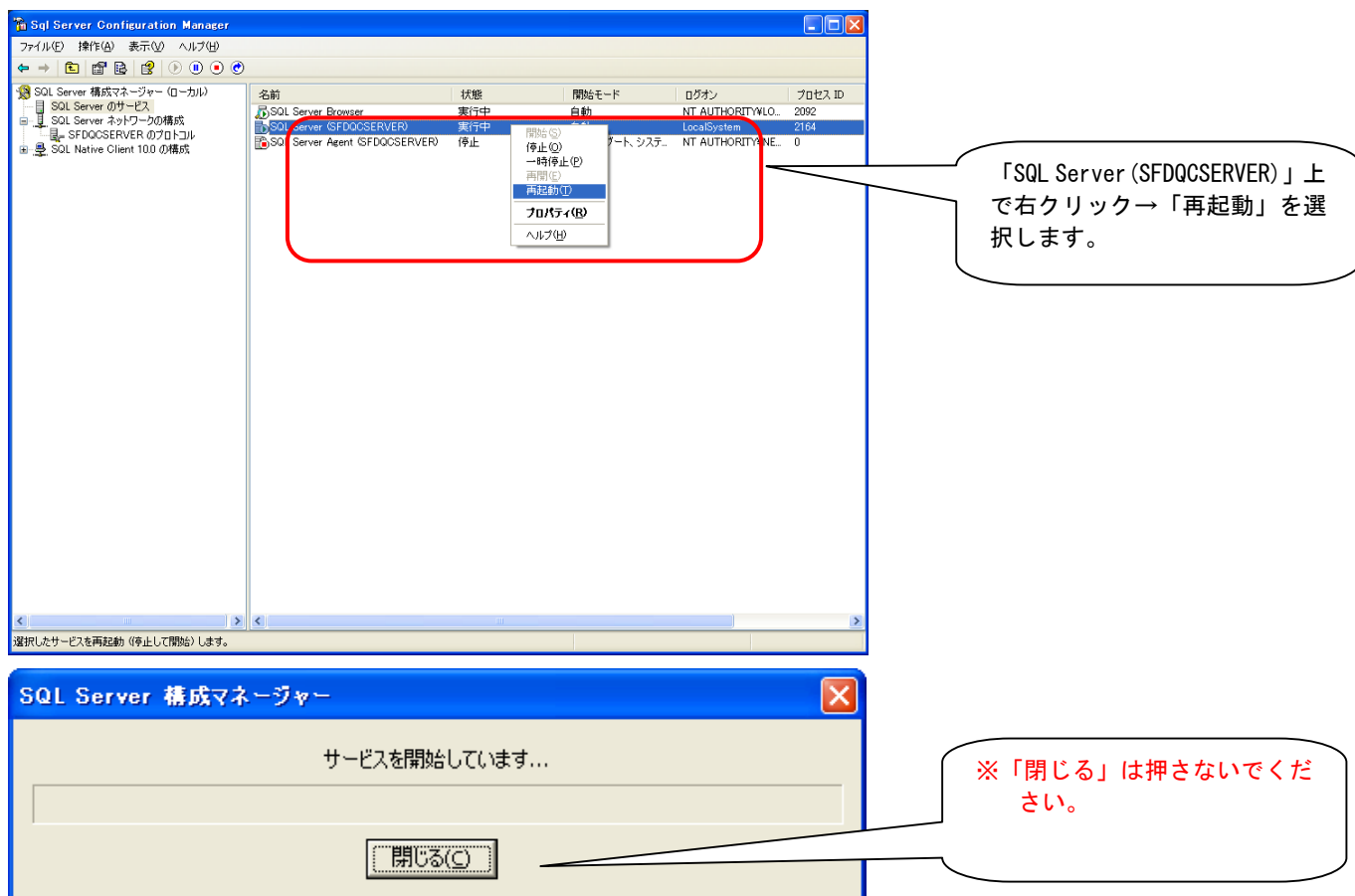
- 2) 「SQL Server 構成マネージャー (Sql Server Configuration Manager)」画面の左側で「SQL Server ネットワークの構成」をダブルクリック→「SFDQCSERVER のプロトコル」をクリックし、右側に表示された「TCP/IP」の項目上で右クリック→「有効化」を選択します。

警告画面が出ますが、そのまま「OK」を押します。



- 3) 次に画面の左側で「SQL Server のサービス」をクリックし、右側に表示された「SQL Server (SFDQCSERVER)」の項目上で右クリック→「再起動」を選択します。

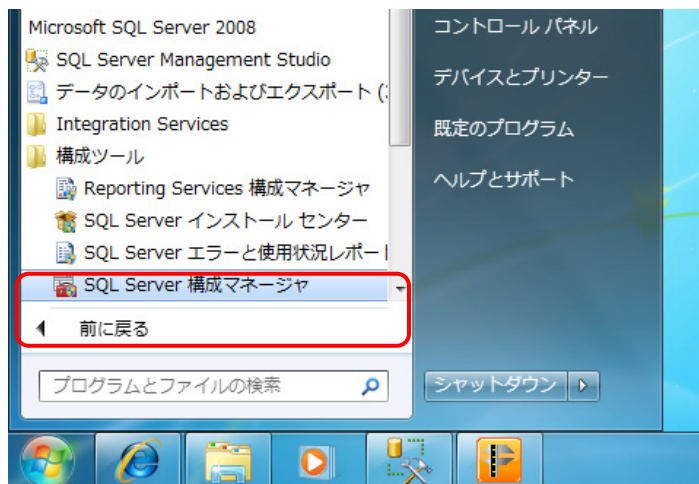
これを実行すると、「サービスの開始」画面が表示されますので、そのまま画面が閉じるまで待ちます。



4) 「SQL Server 構成マネージャー」を終了します。

#### ●Windows Vista / 7 の場合の手順

1) 「スタート」→「すべてのプログラム」または「プログラム」→「Microsoft SQL Server 2008 R2」→「構成ツール」→「SQL Server 構成マネージャー」を起動します。



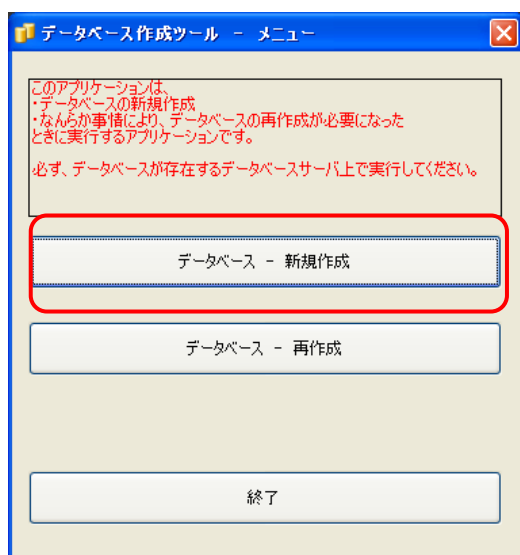
2) それ以降は、上記「Windows XP」と同様の操作を行います。

### 3.5. データベース作成ツールの実行

次に、データベースにデータを登録するための情報を作成する、アプリケーションを実行します。

#### ●Windows XP / Windows Vista / Windows 7 の場合の手順

- 1) CD/DVDドライブ:¥Setup¥Software¥DbCreateフォルダにある「 SfdQCdbCreate.exe 」を起動します。
- 2) 「データベース - 新規作成」を押します。



- 3) 以下の画面が表示されたら「実行」を押し、実行確認画面で「はい」を選択して、データベース情報が作成されるまで待ちます。



- 4) 「完了しました。」と表示されたら「OK」を押し、3)の画面の「戻る」を押して2)の画面に戻り、「終了」を押してアプリケーションを終了します。

### 3.6. ライセンス管理用 USB キードライバーのインストール

次に、「ライセンス管理用 USB キー」のドライバーをインストールします。

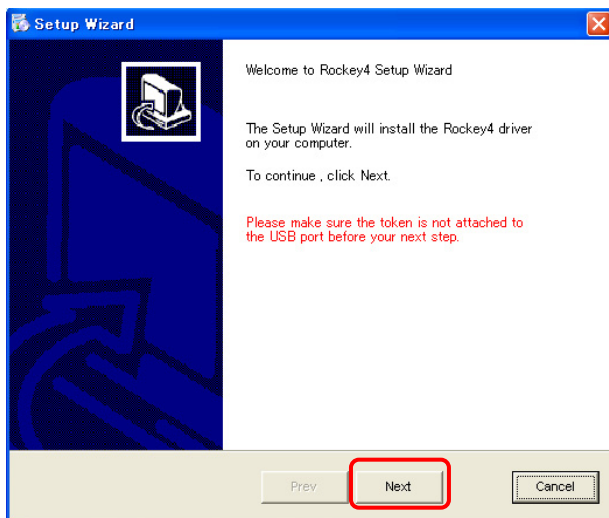
※「ライセンス管理用 USB キー」は、ソフトウェアのライセンス情報を監視するためのものです。  
ドライバーインストール後は、サーバー用パソコンにこれを挿したままにしてください。

【ライセンス管理用 USB キー】

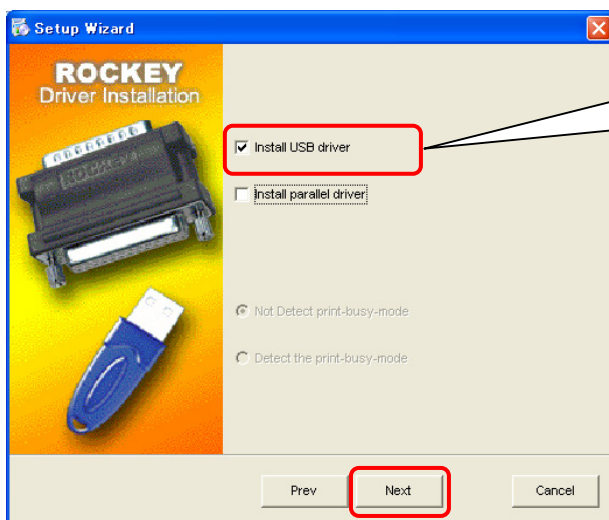


#### ●Windows XP の場合の手順

- 1) CD/DVDドライブ:¥Setup¥License¥Driverフォルダにある「InstDrv.exe」を起動します。
- 2) 「Setup Wizard」の最初の画面で「Next」を押します。

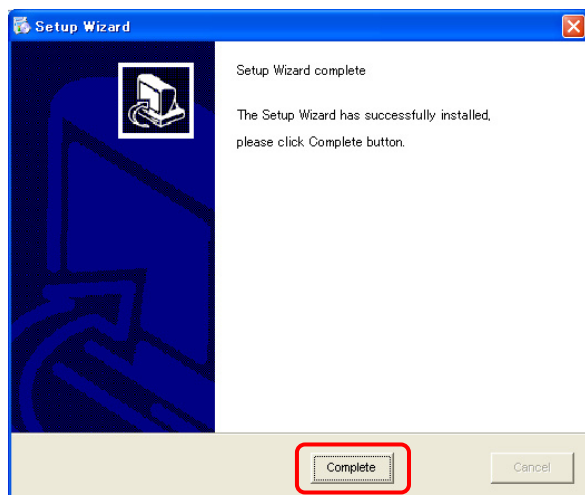


- 3) 以下の画面で「Install parallel driver」のチェックを外し、「Next」を押すと、インストールが実行されます。



「Install parallel driver」の  
チェックを外します。

- 4) インストールが完了すると、以下の画面になりますので、「Complete」を押して終了します。



- 5) 次に、C:\¥QCSYS¥Server フォルダにある「nrSvr.exe」を実行します。  
正常に実行された場合は、画面の右下に以下のようなアイコンが表示されます。



「USB 機器監視用ツール」のアイコンです。

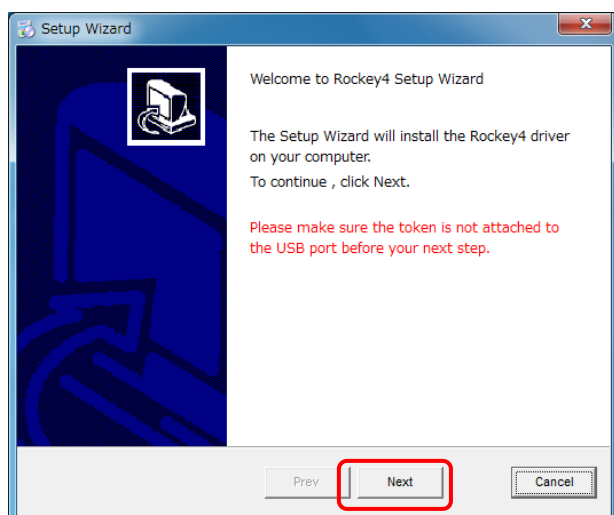
- 6) 続いて、パソコンの再起動を行います。  
7) パソコンが再起動したら、ライセンス管理用 USB キーをパソコンの USB ポートに挿します。



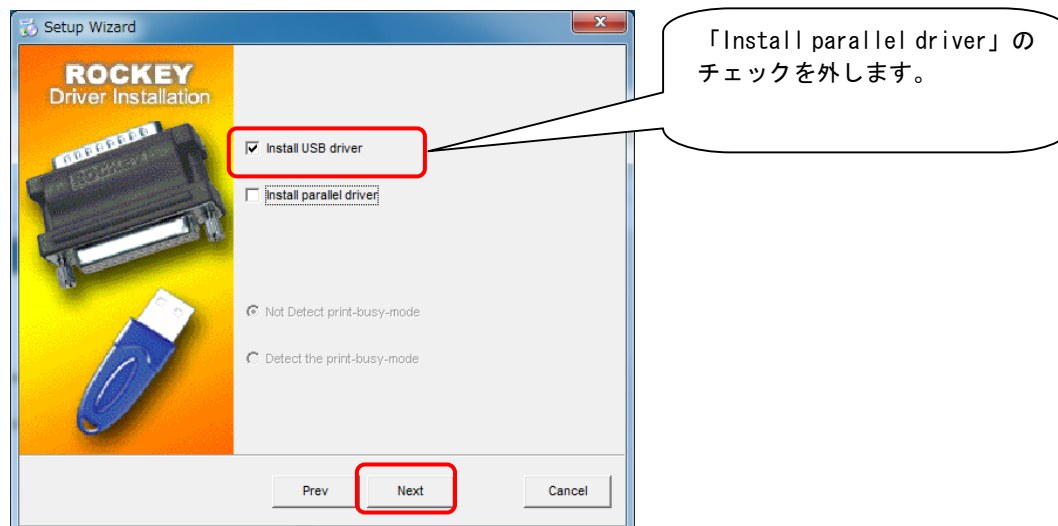
※ 7)の再起動時に、「nrSvr.exe」のエラー画面が表示されることがありますが、問題はありませんので「報告しない」を押して閉じてください。

#### ●Windows Vista / Windows 7 の場合の手順

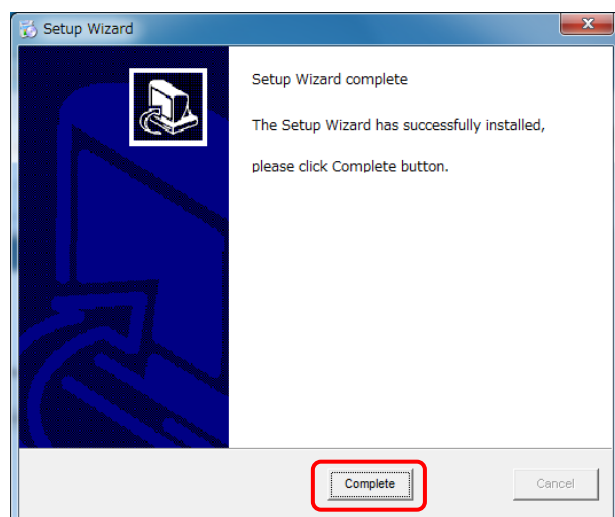
- 1) CD/DVDドライブ:\¥Setup¥UsbDongle¥Driver フォルダにある「InstDrv.exe」を起動します。
- 2) 「Setup Wizard」の最初の画面で「Next」を押します。



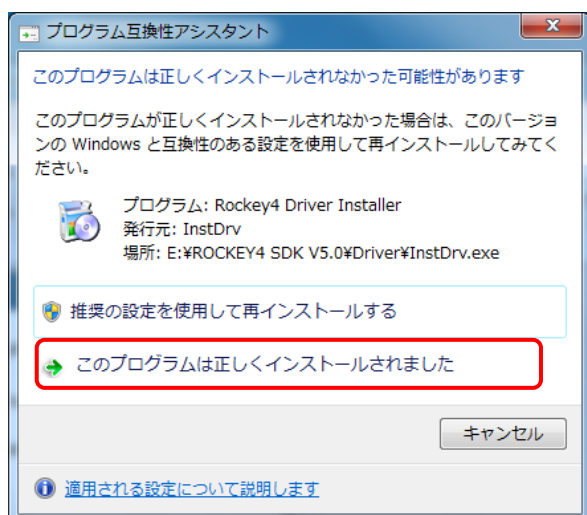
- 3) 以下の画面で「Install parallel driver」のチェックを外し、「Next」を押すと、インストールが実行されます。



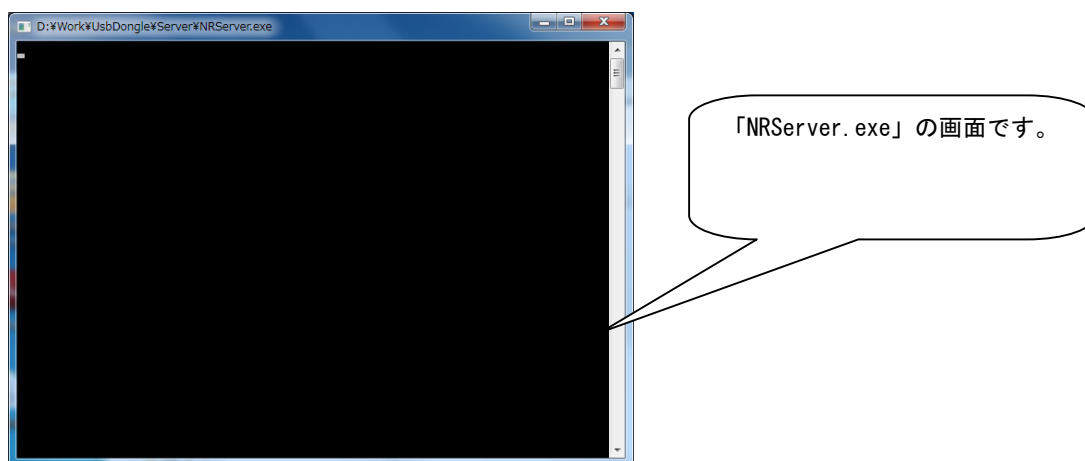
- 4) インストールが完了すると、以下の画面になりますので、「Complete」を押して終了します。



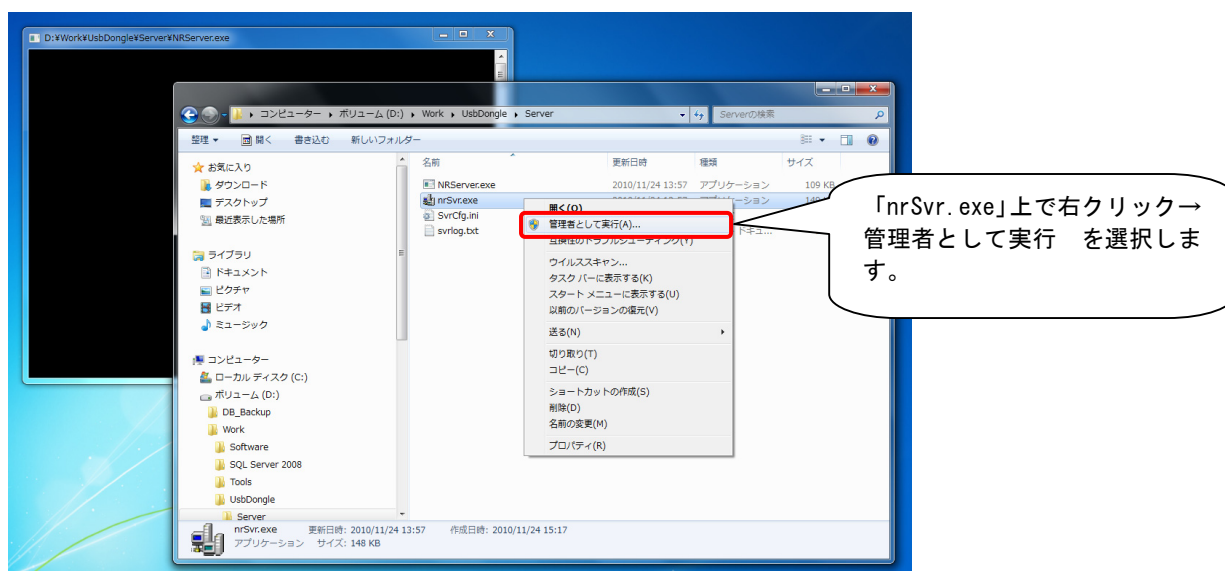
- ※ 4)の後、以下のような画面が表示されることがありますが、インストールは正常に行えていますので、「このプログラムは正しくインストールされました」を押してください。



- 5) 次に、C:\¥QCSYS¥Server フォルダにある「NRServer.exe」を実行します。



- 6) 次に、C:\¥QCSYS¥Server フォルダにある「nrSvr.exe」を選択し、右クリック→管理者として実行 を選択します。



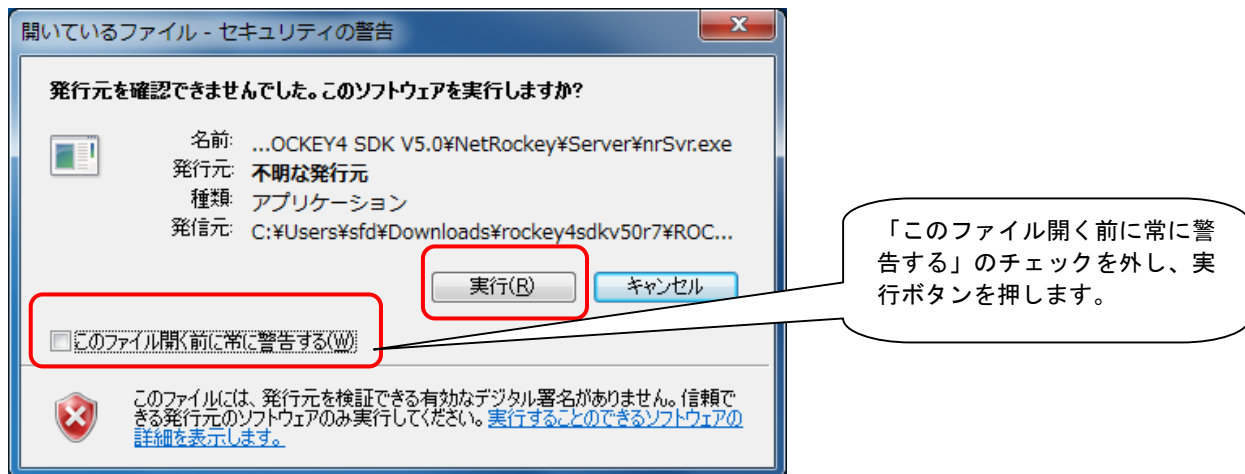
正常に実行された場合は、画面の右下に以下のようなアイコンが表示されます。



- 7) 5)の画面の「×」ボタンを押して、「NRServer.exe」を終了します。  
 8) 続いて、パソコンの再起動を行います。

9) パソコンが再起動したら、以下のような警告画面が表示されることがあります。

その場合は、「このファイル開く前に常に警告する」のチェックを外し、実行ボタンを押してください。



10) 最後にライセンス管理用 USB キーをパソコンの USB ポートに挿します。



#### ●ネットワークが切断されたときの、対処について

→ [5.4. ネットワークが切断された場合の対処方法](#) の項を参照してください。

以上で、サーバーPC の設定は終了です。

続いて、クライアント PC の設定を行います。

## 4. クライアント PC の設定

クライアント PC の設定手順および設定方法を説明します。

前提として、以下の条件が必要となります。

- 1) インストール時のWindowsのログインユーザーが、「管理者権限 (Administrator)」を持っていること。  
→ [5.1. ログインユーザーアカウントの確認方法](#) の項を参照してください。
- 2) PCの「休止」が無効となっていること。  
→ [5.2. 休止 / スリープ状態の確認方法](#) の項を参照してください。

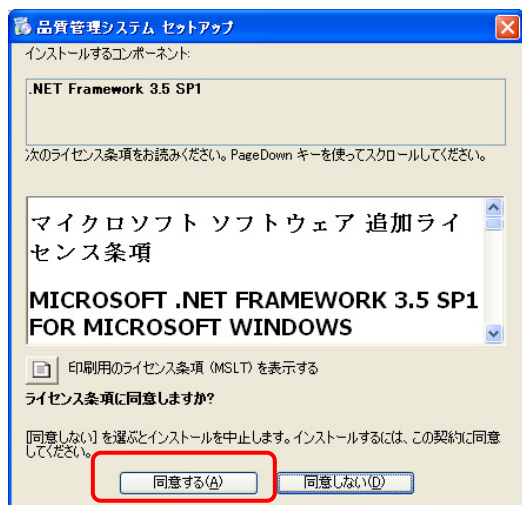
### 4.1. 品質管理システムアプリケーションのインストール

「品質管理システム」のアプリケーションをインストールします。

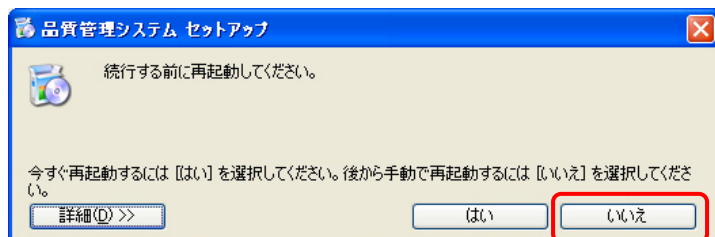
#### ●Windows XP / Windows Vista / Windows 7 のインストール手順

- 1) CD/DVDドライブ:¥Setup¥Software¥QCSysフォルダにある「Setup.exe」を起動します。
- 2) PCに「.NET Framework 3.5 SP1」がインストールされていない場合は、下記のような画面が表示されますので、「同意する」を押し、完了するまで待ちます。(完了するまで数分かかる場合があります。)

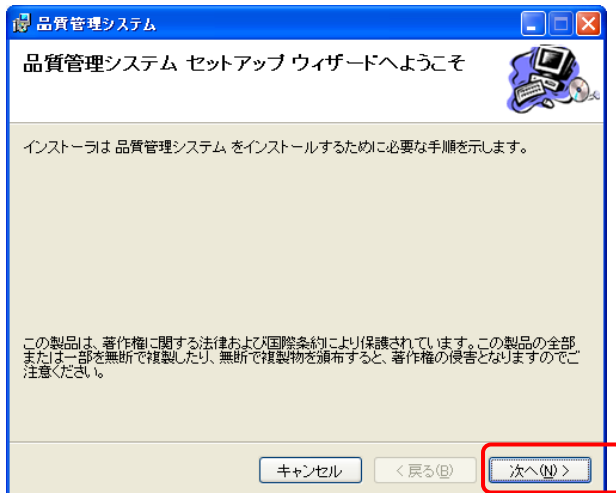
※ 既にインストール済みの場合は2)、3)が省略されます。



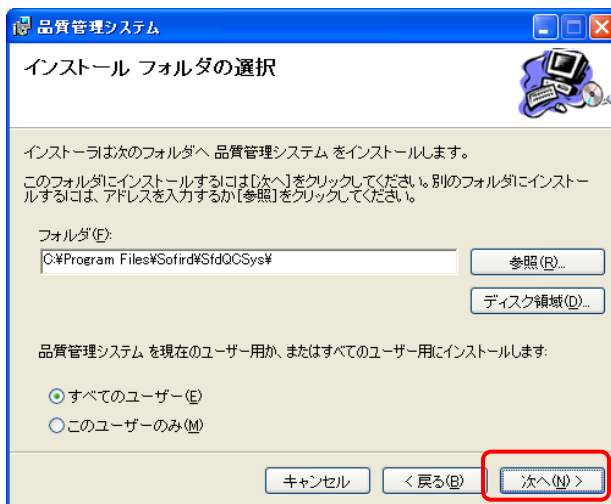
- 3) 「.NET Framework 3.5 SP1」のインストールが完了すると、再起動の確認画面が表示されることがありますが、「いいえ」を押し、インストールを続行します。(※表示されない場合は、自動的に4)に進みます。)



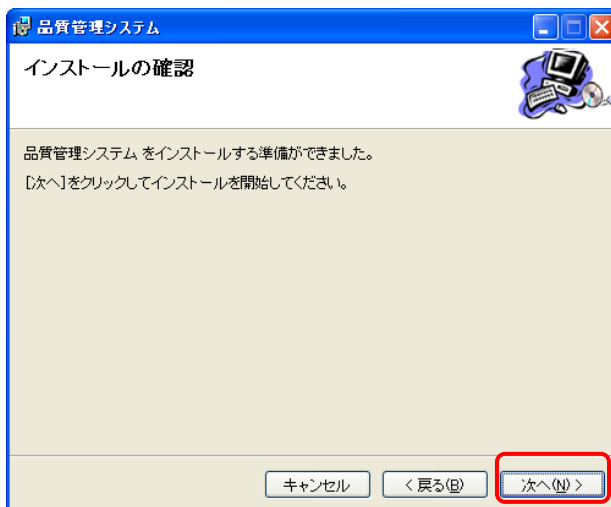
- 4) 「品質管理システム」のセットアップ画面が表示されますので、「次へ」を押します。



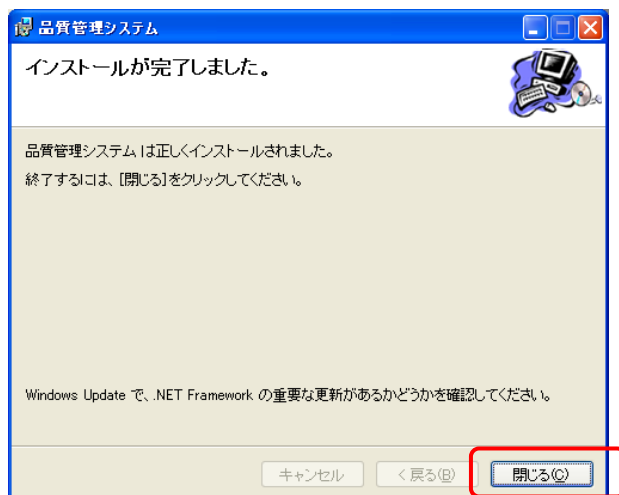
- 5) 「フォルダ選択」の画面が表示されますので、何も変更せず、「次へ」を押します。



- 6) 「確認」の画面が表示されますので、「次へ」を押すとインストールが始まります。そのまま完了するまで待ちます。



- 7) インストールが完了したら、「閉じる」を押すとインストールが完了します。



アプリケーションのアイコン



- 8) 2)、3)のインストール画面が表示された場合は、ここでPCの再起動を行います。

※表示されなければ、再起動は不要です。

以上で、クライアントPCの設定は終了です。

「品質管理システム」のアイコンをクリックすれば、アプリケーションを起動できます。

## 5. その他の設定／確認

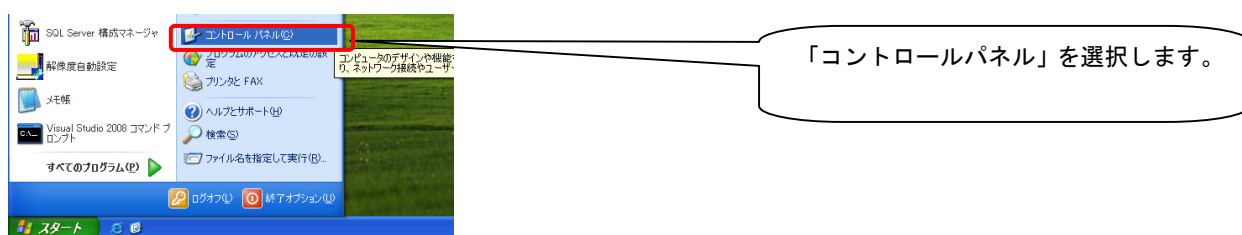
### 5.1. ログインユーザーアカウントの確認方法

アプリケーションをインストールするためには、ログインユーザーが「管理者権限 (Administrator)」を持っている必要があります。

ログインユーザーが「管理者権限 (Administrator)」を持っていない場合は、権限を持つユーザーで再ログインをしてください。

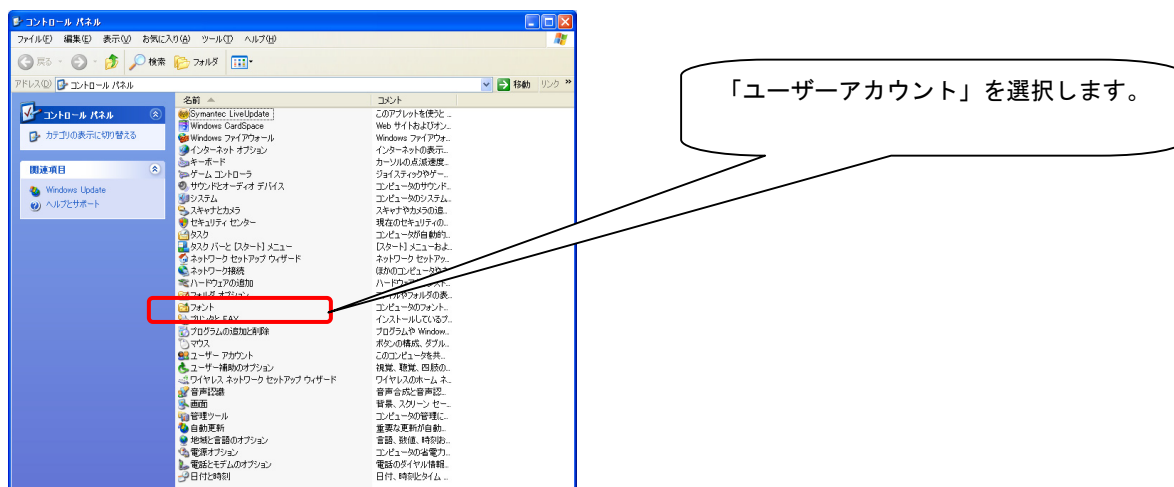
#### ●Windows XP の場合

- 1) 「スタート」→「コントロールパネル」を開きます。

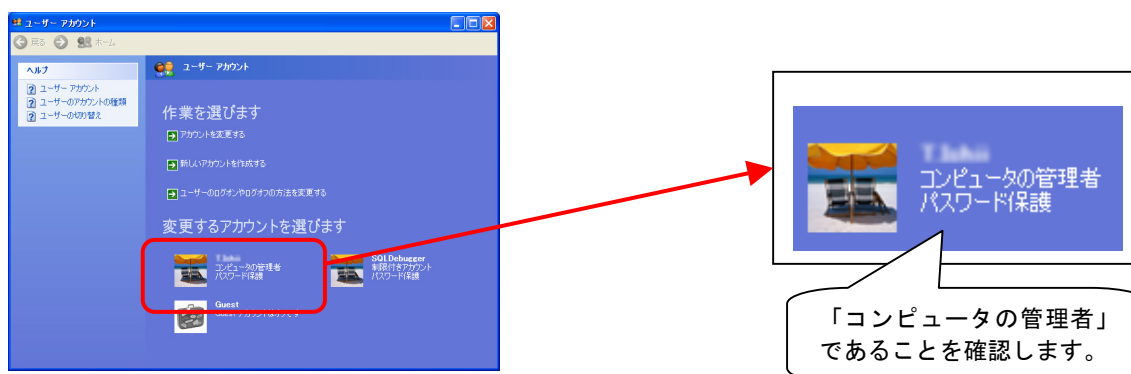


- 2) 「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」を開きます。

※「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「ユーザーアカウント」が表示されます。

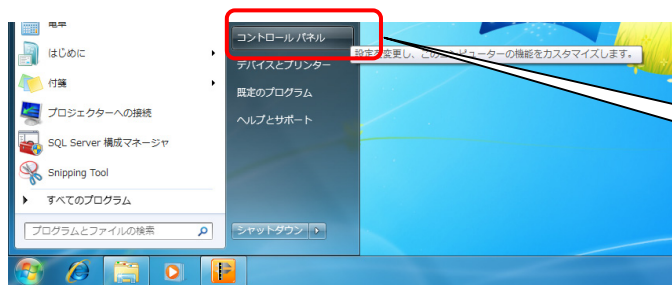


- 3) 今、ログインしているユーザーが「コンピュータの管理者」になっていることを確認します。



●Windows Vista / Windows 7 の場合

- 1) 「スタート」→「コントロールパネル」(※クラシック表示の場合は、「設定」→「コントロールパネル」)を開きます。



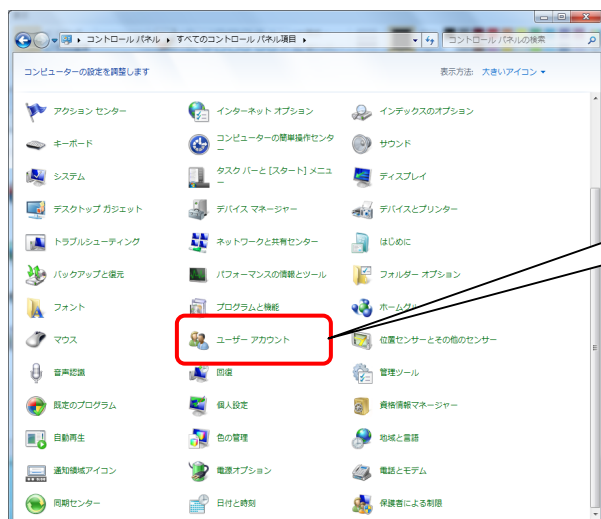
「コントロールパネル」を選択します。

- 2) 「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」を開きます。

※「ユーザーアカウント」が表示されていない場合

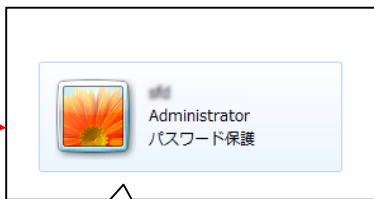
Windows Vista : 「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「ユーザーアカウント」が表示されます。

Windows 7 : 「コントロールパネル」の右上の「表示方法」を「大きいアイコン」に変えると「ユーザーアカウント」が表示されます。



「ユーザーアカウント」を選択します。

- 3) 今、ログインしているユーザーが「Administrator」になっていることを確認します。



「Administrator」であることを確認します。

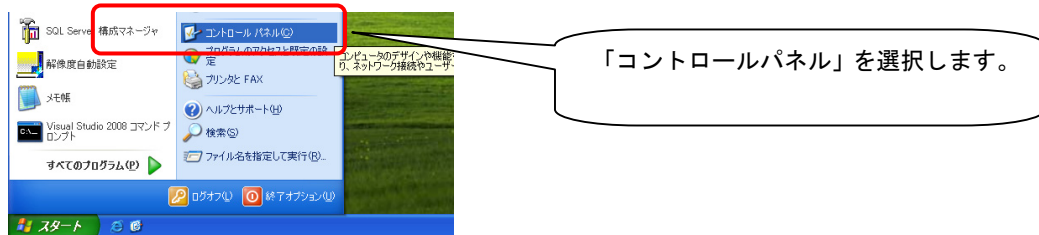
## 5.2. 休止 / スリープ状態の確認方法

アプリケーションが途中で止まらないようにするために、「休止状態」または「スリープ状態」を無効にする必要があります。

※休止 / スリープ状態になってしまうと、アプリケーションのデータベースとの接続情報が途切れてしまいます。

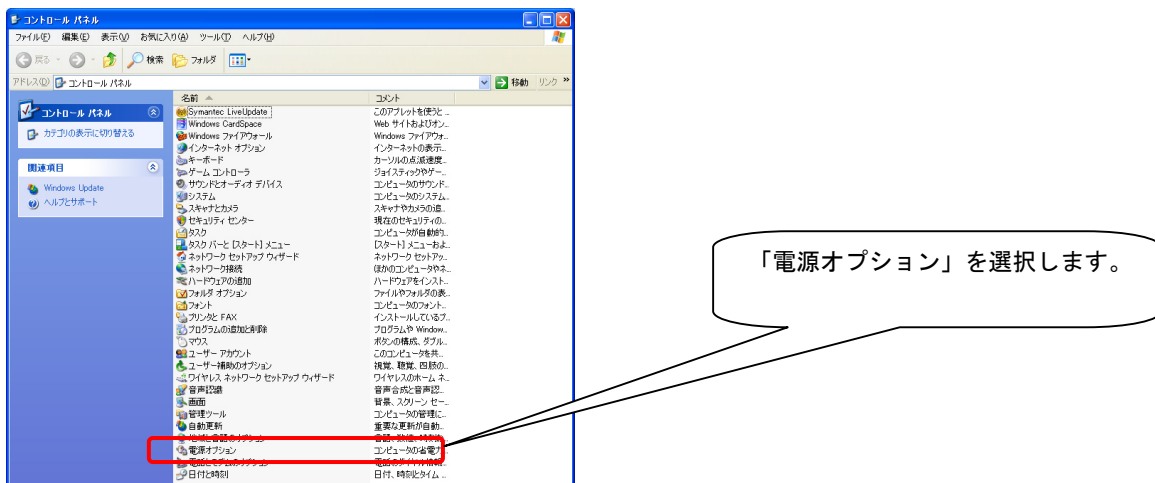
### ●Windows XP の場合

- 1) 「スタート」→「コントロールパネル」を開きます。

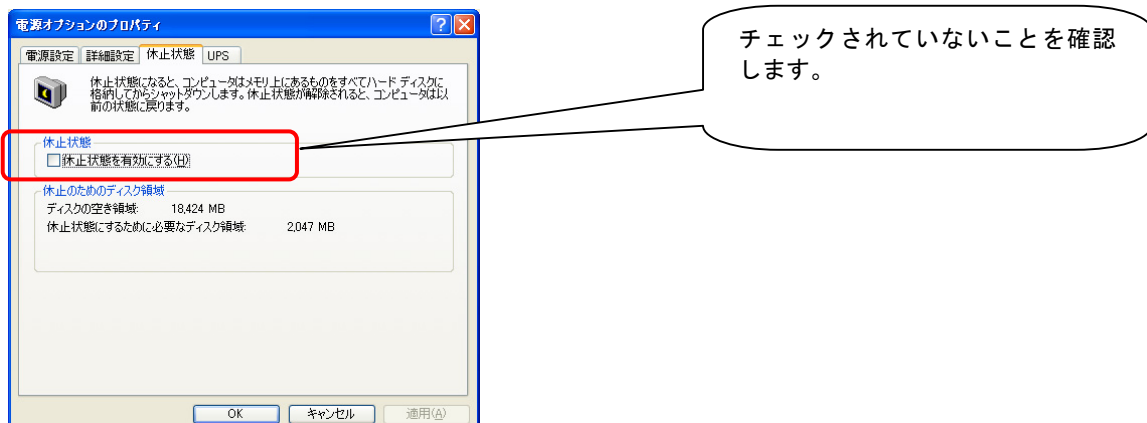


- 2) 「コントロールパネル」の「電源オプション」を開きます。

※「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「電源オプション」が表示されます。

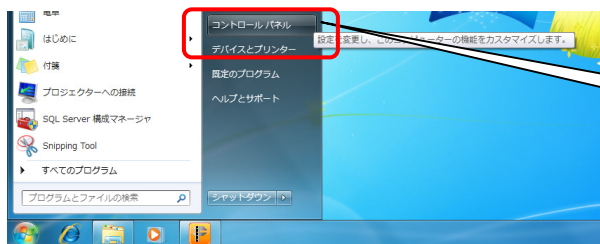


- 3) 「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」がチェックされていないことを確認します。チェックされている場合は、チェックをはずし、「OK」ボタンを押してください。



●Windows Vista / Windows 7 の場合

1) 「スタート」→「コントロールパネル」を開きます。



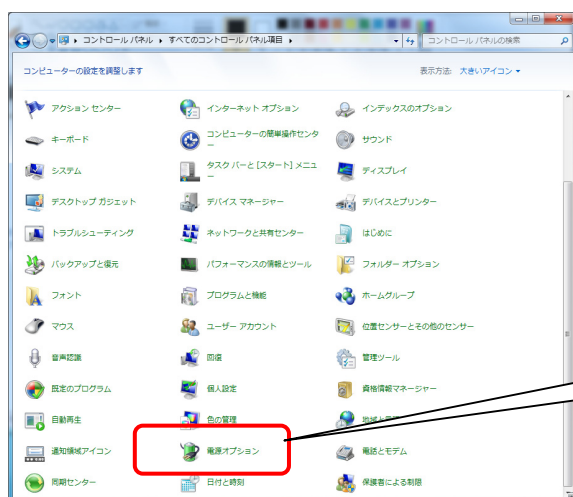
「コントロールパネル」を選択します。

2) 「コントロールパネル」の「電源オプション」を開きます。

※「電源オプション」が表示されていない場合

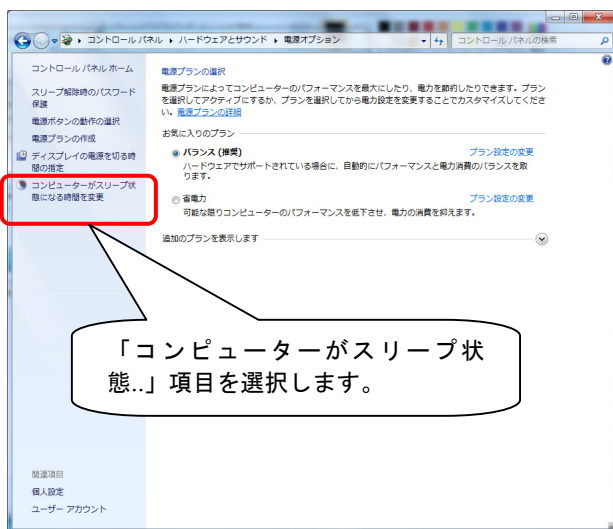
Windows Vista : 「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「電源オプション」が表示されます。

Windows 7 : 「コントロールパネル」の右上の「表示方法」を「大きいアイコン」に変えると「電源オプション」が表示されます。

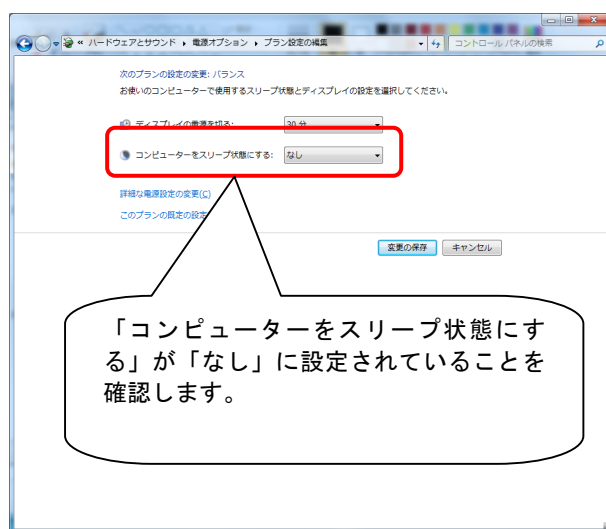


「電源オプション」を選択します。

3) 「コンピューターがスリープ状態..」項目を選択すると、下記の右側の画面が表示されますので、その中の「コンピューターをスリープ状態にする」が「なし」に設定されていることを確認します。されていない場合は、「なし」に変更し、「変更の保存」ボタンを押します。



「コンピューターがスリープ状態..」項目を選択します。



「コンピューターをスリープ状態にする」が「なし」に設定されていることを確認します。

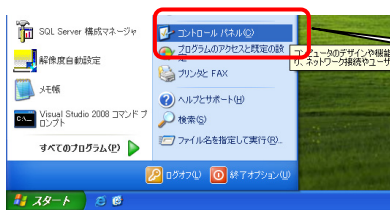
### 5.3. OS のサービスパックの確認方法

データベースを Windows XP / Windows Vista にインストールする場合、最新のサービスパック（※2010年10月現在で、Windows XP は「Service Pack 3」、Windows Vista は「Service Pack 2」）が適用されている必要があります。

※Windows XP の「Service Pack 2」で運用される場合は、「Microsoft Update」等で最新の修正が反映されている必要があります。

#### ●Windows XP の場合

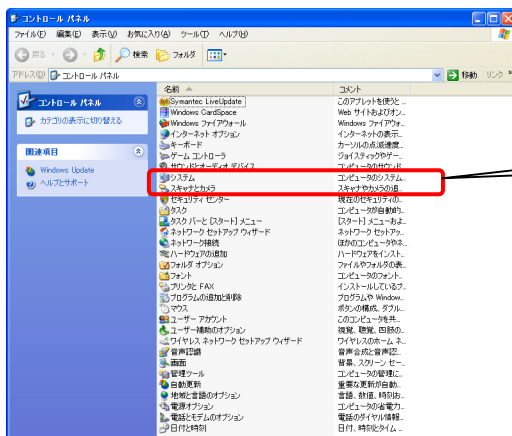
1) スタート → 「コントロールパネル」を開きます。



「コントロールパネル」を選択します。

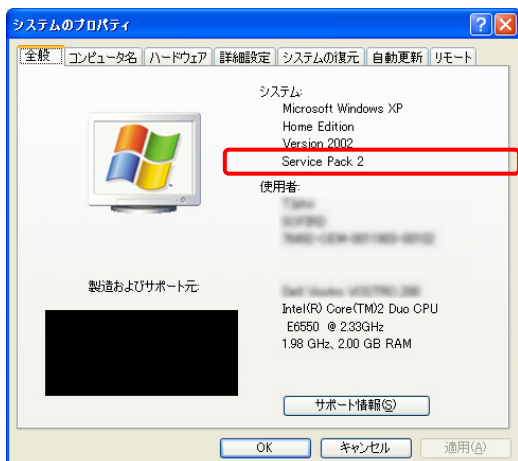
2) 「コントロールパネル」の「システム」を開きます。

※「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「システム」が表示されます。



「システム」を選択します。

3) 「全般」タブのシステムの情報で「Service Pack」の項目を確認します。

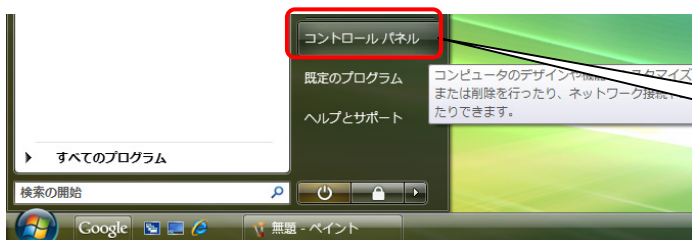


「Service Pack」が最新のものになっていることを確認します。

※2010年10月現在で、「Service Pack 3」です。

## ●Windows Vista の場合

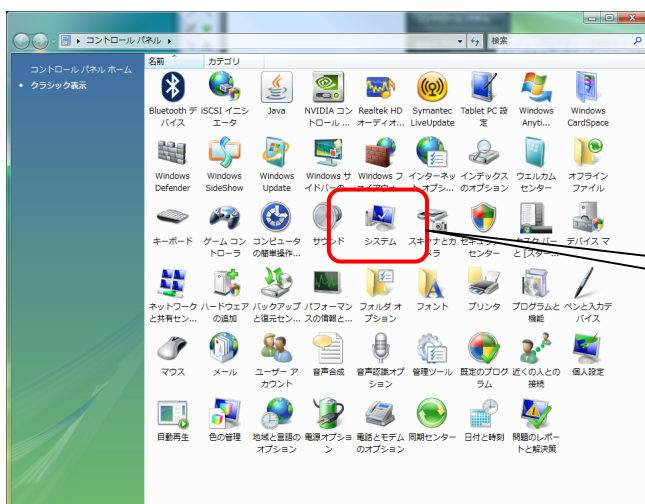
- 1) 「スタート」→「コントロールパネル」を開きます。



「コントロールパネル」を選択します。

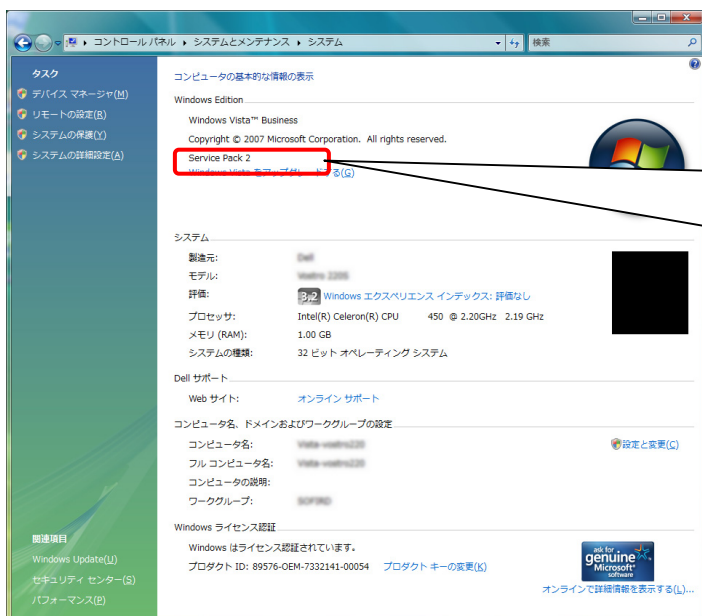
- 2) 「コントロールパネル」の「システム」を開きます。

※「システム」が表示されていない場合は、「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「システム」が表示されます。



「システム」を選択します。

- 3) システムの情報で「Service Pack」の項目を確認します。



「Service Pack」が最新のものになっていることを確認します。

※2010年10月現在で、Vista: 「Service Pack 2」です。

※Windows 7 にはサービスパックによる制限はありません。

#### 5.4. ネットワークが切断された場合の対処方法

ネットワークが切断された場合に、以下の復旧処理を行ってください。

##### 【ライセンス管理用 USB キー】（サーバーPC）

- 1) ライセンス管理用の USB キーをサーバーPC から抜いてください。



ライセンス管理用 USB キー

- 2) サーバーPC を再起動してください。
- 3) サーバーPC が起動したら、サーバーPC がネットワークに接続されていることを確認した後、ライセンス管理用の USB キーをサーバーPC に挿してください。

##### 【品質管理システム】（クライアントPC）

「品質管理システム」を一旦終了し、

- ① ネットワークに接続されていること
- ② サーバーPC が起動していること
- ③ ライセンス管理用 USB キーが挿してあること

を確認した後、「品質管理システム」を起動してください。

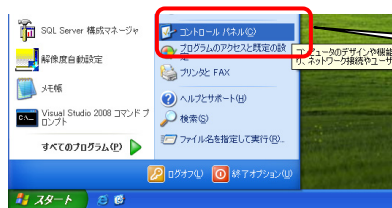
## 6. アンインストール

### 6.1. 品質管理システムのアンインストール

クライアント PC にインストールされている「品質管理システム」が不要になった場合の、アンインストール方法を説明します。

#### ●Windows XP の場合

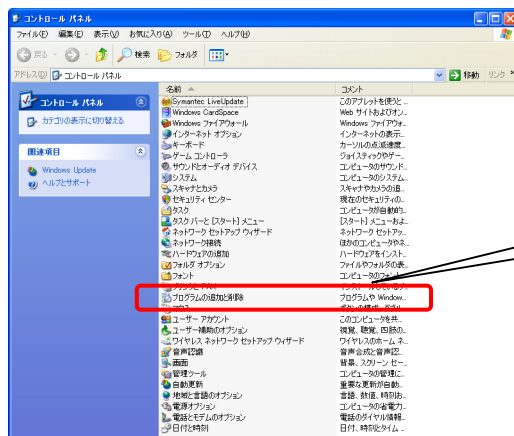
- 1) スタート → 「コントロールパネル」を開きます。



「コントロールパネル」を選択します。

- 2) 「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」を開きます。

※「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「プログラムの追加と削除」が表示されます。



「プログラムの追加と削除」を選択します。

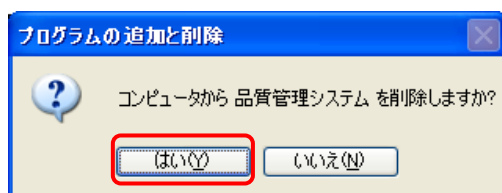
- 3) 左側のメニューより「プログラムの変更と削除」を選択し、右側に表示された一覧の中から「品質管理システム」を選択すると「変更」と「削除」ボタンが表示されますので、「削除」を押します。



「プログラムの変更と削除」を選択します。

「品質管理システム」を選択し、「削除」を押します。

- 4) 下記のような確認画面で、「はい」を押せばアンインストールが開始されますので、そのまま待ちます。正常に終了すれば、アンインストールが完了します。

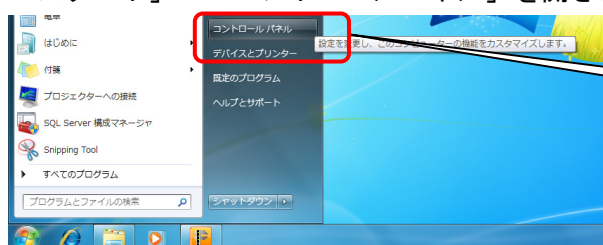


- 5) 最後に、C:\¥QCSYS フォルダを削除します。

※ C:\¥QCSYS フォルダに帳票や CSV ファイルが出力されている場合は、これらを別フォルダに待避するなどしてから削除してください。

## ●Windows Vista / Windows 7 の場合

- 1) 「スタート」→「コントロールパネル」を開きます。

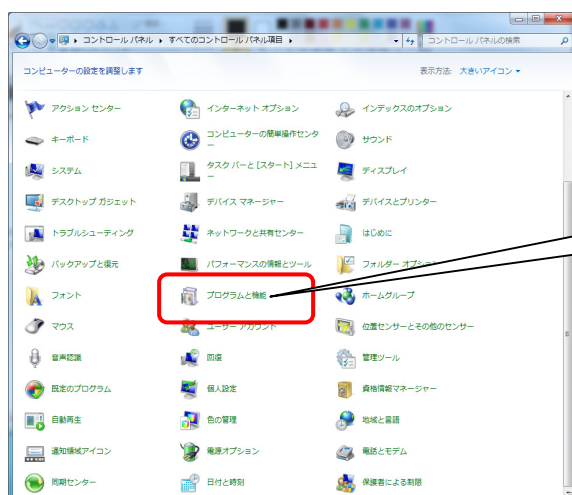


- 2) 「コントロールパネル」の「プログラムと機能」を開きます。

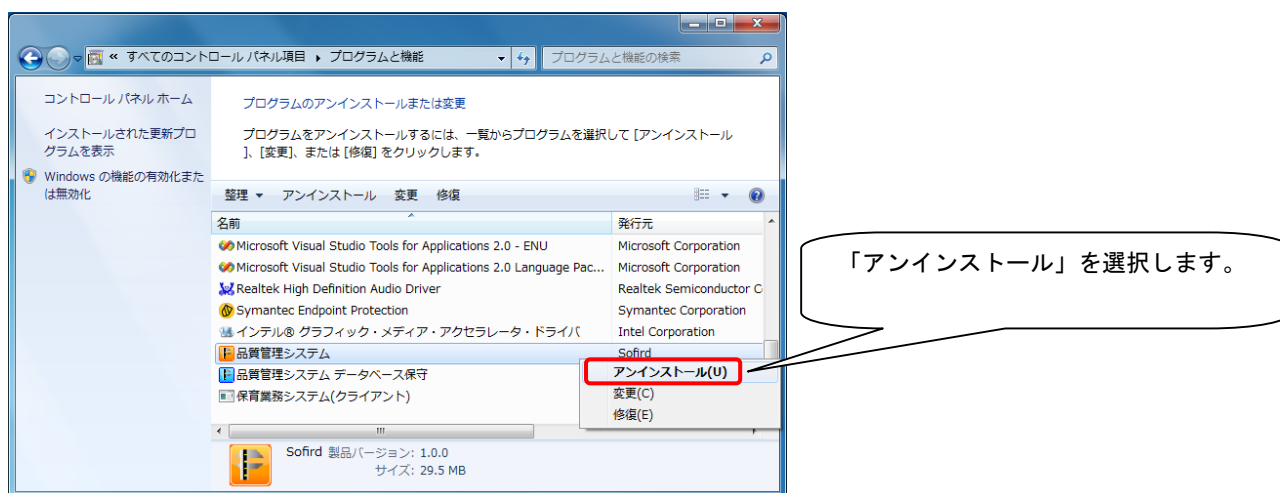
※「プログラムと機能」が表示されていない場合

Windows Vista : 「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「プログラムと機能」が表示されます。

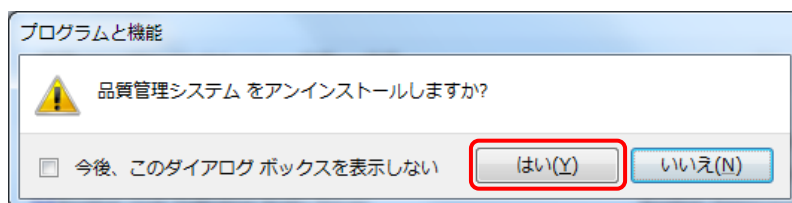
Windows 7 : 「コントロールパネル」の右上の「表示方法」を「大きいアイコン」に変えると「プログラムと機能」が表示されます。



- 3) 「品質管理システム」の項目上で、右クリック→「アンインストール」を選択します。



- 4) 下記のような確認画面で、「はい」を押せばアンインストールが開始されますので、そのまま待ちます。  
(※この途中で、「ユーザーアカウント制御」という実行確認画面が表示される場合があります。)  
正常に終了すれば、アンインストールが完了します。



- 5) 最後に、C:\¥QCSYS フォルダを削除します。

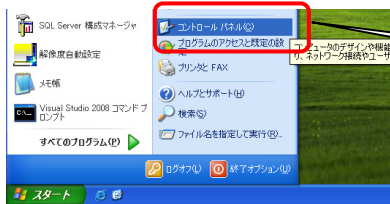
※ C:\¥QCSYS フォルダに帳票や CSV ファイルが出力されている場合は、これらを別フォルダに待避するなどしてから削除してください。

## 6.2. 品質管理システム（データベース保守アプリケーション）のアンインストール

サーバーPC にインストールされている「品質管理システム」が不要になった場合の、アンインストール方法を説明します。

### ●Windows XP の場合

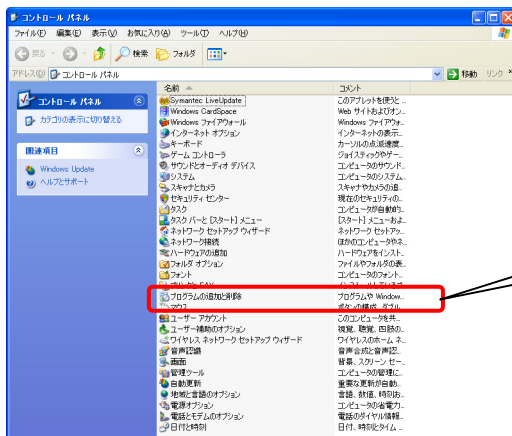
1) スタート → 「コントロールパネル」を開きます。



「コントロールパネル」を選択します。

2) 「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」を開きます。

※「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「プログラムの追加と削除」が表示されます。



「プログラムの追加と削除」を選択します。

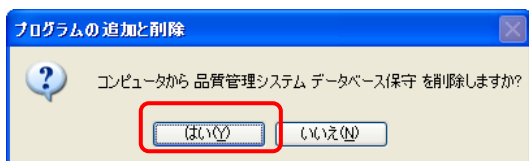
3) 左側のメニューより「プログラムの変更と削除」を選択し、右側に表示された一覧の中から「品質管理システム データベース保守」を選択すると「変更」と「削除」ボタンが表示されますので、「削除」を押します。



「プログラムの変更と削除」を選択します。

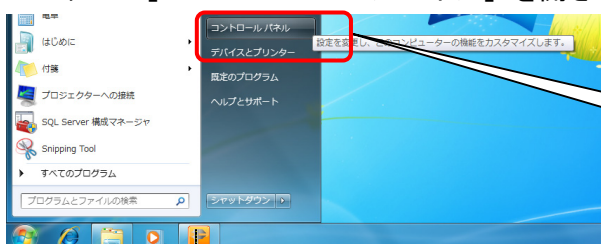
「品質管理システム データベース保守」を選択し、「削除」を押します。

- 4) 下記のような確認画面で、「はい」を押せばアンインストールが開始されますので、そのまま待ちます。正常に終了すれば、アンインストールが完了します。



## ●Windows Vista / Windows 7 の場合

- 1) 「スタート」→「コントロールパネル」を開きます。

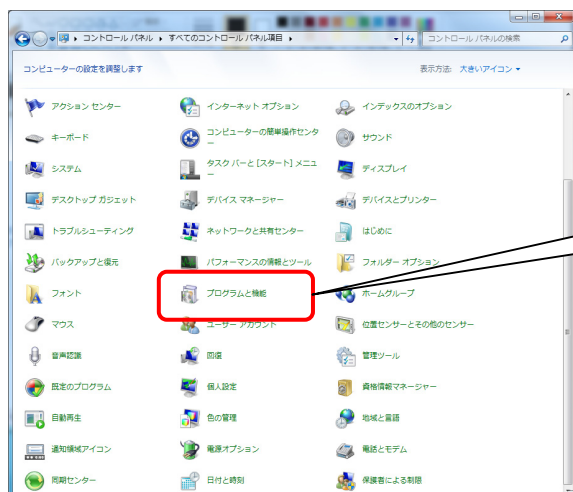


- 2) 「コントロールパネル」の「プログラムと機能」を開きます。

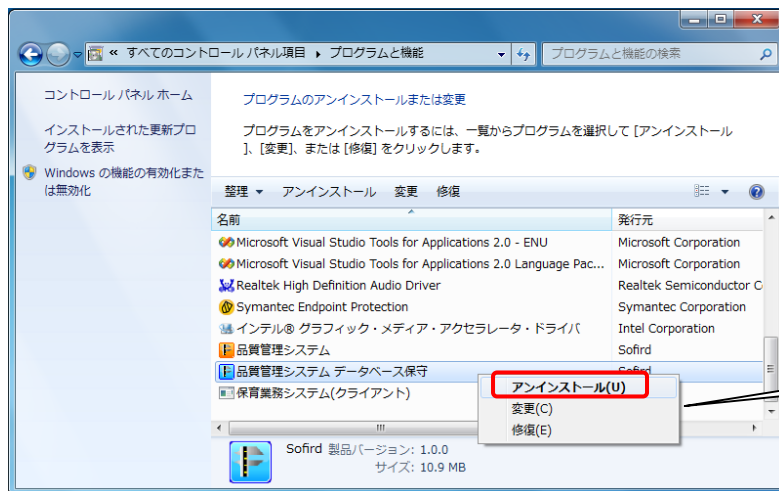
※「プログラムと機能」が表示されていない場合

Windows Vista : 「コントロールパネル」の左上の項目を「クラシック表示」に変えると「プログラムと機能」が表示されます。

Windows 7 : 「コントロールパネル」の右上の「表示方法」を「大きいアイコン」に変えると「プログラムと機能」が表示されます。

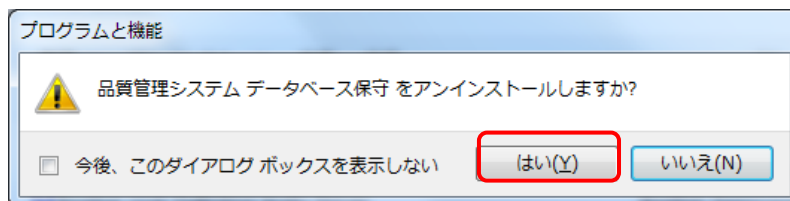


- 3) 「品質管理システム データベース保守」の項目上で、右クリック→「アンインストール」を選択します。



「アンインストール」を選択します。

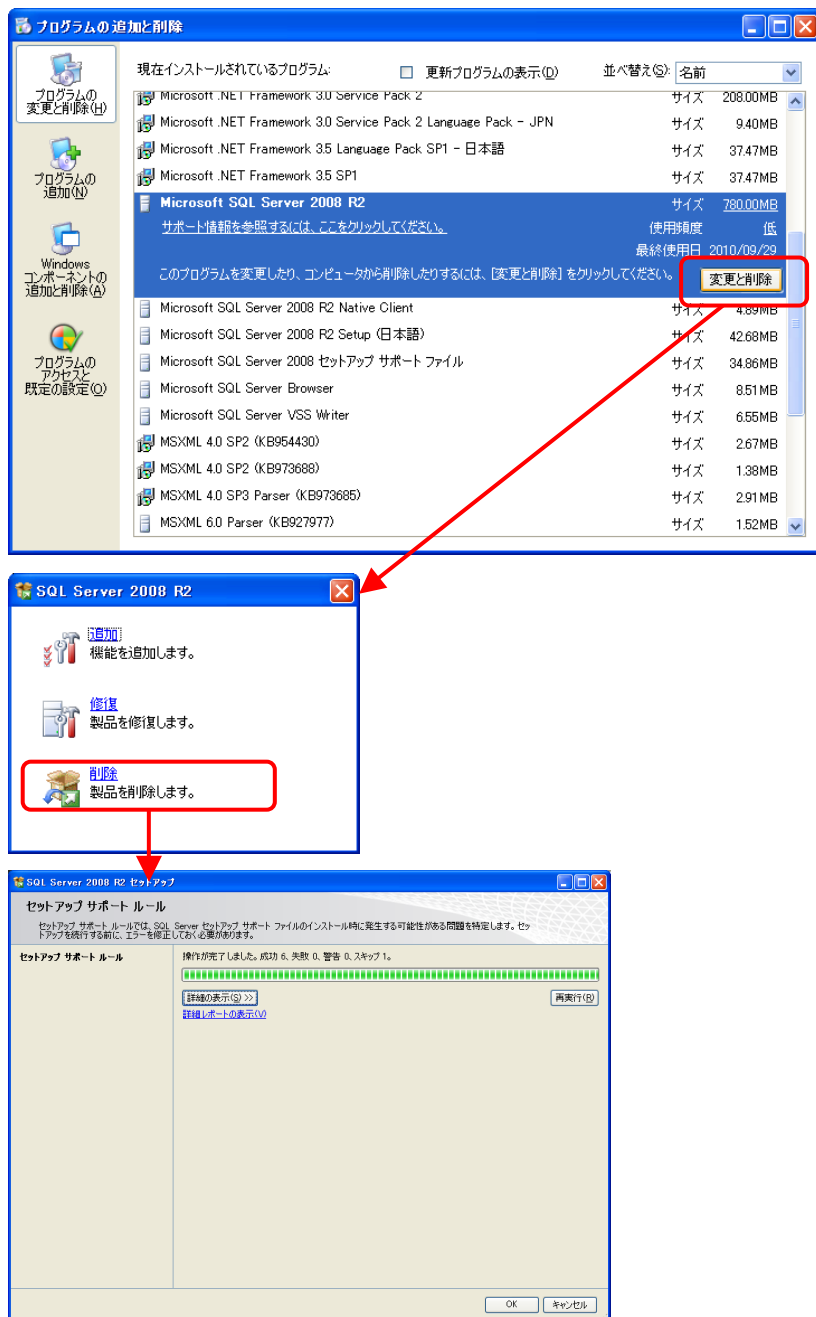
- 4) 下記のような確認画面で、「はい」を押せばアンインストールが開始されますので、そのまま待ちます。  
(※この途中で、「ユーザーアカウント制御」という実行確認画面が表示される場合があります。)  
正常に終了すれば、アンインストールが完了します。



### 6.3. SQL Server 2008 R2 Express Edition のアンインストール

サーバーPCにインストールされている「SQL Server 2008 R2 Express Edition」が不要になった場合の、アンインストール方法につきましては、「[6.1. 品質管理システムのアンインストール](#)」等と同じ様に「SQL Server 2008 R2」の「変更と削除」ボタンを押し、次の画面で「削除」を選択すると実行できますが、詳細につきましては、Microsoft社の「Microsoft SQL Server 2008 R2」の紹介ページ等でご確認ください。

#### 【参考 : Microsoft SQL Server 2008 R2 Express Edition のアンインストール画面】



↑ 上記のような画面が表示されますので、ガイダンスに従いアンインストールしてください。

## 7. 連絡先

ご質問等は、下記へお願い致します。

【会社名】 : 株式会社 ソファード  
【担当部署】 : ソフトウェア開発部  
【住所】 : 〒370-1205 群馬県高崎市栗崎町 504-1  
【TEL】 : 027-345-0603  
【FAX】 : 027-345-0604  
【e-mail】 : [gcsys@sofird.co.jp](mailto:gcsys@sofird.co.jp)  
【URL】 : <http://www.sofird.co.jp/>

---

本書で使用される製品名等は、各社の商標または登録商標です。

なお、本書においては (TM) マーク、および (R) マークを明示しておりません。

- ・ Microsoft、Windows Server、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Internet Explorer、および SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。